



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2013年度 活動報告集



はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、2012年度社会貢献活動として「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始し、2013年度に2年目を迎えました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化、貧困などくらしに関する困難さは、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取り組みを行っていかねば、解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、次の3つのテーマにそった、生協と他団体が協同で行う取り組みを助成の対象としております。

①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

③女性と子どもが生き生きする

2013年度は61件のご応募をいただき、審査委員会において38件、2,140万円の助成を決定しました。なお選定にあたっては、次の選考基準を設け審査を進めました。

選考基準

- ①生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度、⑥活動の新規性や先駆性
- ※2012年度からの継続助成となった団体では、取り組みの発展性にも着目しました。

また、テーマごとの審査上の特徴について以下のご報告いたします。

テーマ① くらしの困りごとの解決に資する活動

2012年から継続した応募は6件と多く、特に高齢者、過疎地による見守り活動、買い物支援、家事サービス等の生活支援サービスが目立ちました。買い物支援では、2011年度より継続的に取り組む中で、参加している各団体の当事者意識が高くなり自発的、積極的に円卓会議に参加し、各種イベントを企画するといった姿勢も見受けられるなど、発展性がみられる活動に助成を決定しました。

テーマ② 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする活動

このテーマは、被災地支援や県内で過疎地域と都市部の交流、サロン運営などが特徴でした。被災地支援は、遠隔地からの支援よりも同一県内や同一地域で生協がかかわりを持って支援や交流することを特に重視しました。

テーマ③ 女性と子どもが生き生きする活動

福島の子どもたちを他県に招待する取り組みについて、各生協が積極的に取り組んでいることもあり、本助成でも各団体に対し一律の額を支援していくこととしました。

協同の取り組みのモデルに関する交流の必要性

審査委員会では、地域でのネットワーク形成の促進や助成応募を活発にするためには、助成の条件の一つである「協同の取り組み」について事例交流のうえ、モデルを明らかにする取り組みが効果的であるという意見が上がりました。そのため、本助成団体の事例を報告する場として、2013年11月大阪で開催された日本生協連主催の「あったか地域づくり交流会」では、本助成団体から活動報告を行っていただきました。今後もこのような地域における協同事例の普及や交流も活用し、さらに活動が促進することを期待しています。

2013年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会
委員長 上野谷 加代子 (同志社大学 社会学部 教授)

はじめに	1
2013年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 上野谷 加代子 (同志社大学 社会学部 教授)	
2013年度 「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧	4

活動報告集

テーマ
1

くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

松江保健生活協同組合 地域ケア連携フォーラム実行委員会	7
鳥取県生活協同組合 まちなかくらし助け合い活動	8
消費者信用生活協同組合 社会的排除者・金融的排除者に対し、寄り添い支援する	9
加須ふれあいセンター 東日本大震災被災者支援地域協同センター加須	10
広島県生活協同組合連合会 地域での支えあいを生協として推進するため、 生協と地域の諸団体が構成する研究会を発足し、地域福祉の指針づくりをすすめる。	11
いばらきコープ生活協同組合 牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援	12
生活協同組合パルシステム千葉 つなげる+つづける旭の和 ～パルシステムフェア for 復興あさひ～	13
見守りそくしん隊 守山 地域のお互いさまの見守り活動・解決支援組織のネットワークづくり	14
みやぎ県南医療生活協同組合 被災者への健康づくりや相談とふれあい活動	15
西都保健生活協同組合 年末なんでも相談会	16
生活協同組合ひろしま コープ五日市北(生協ひろしま店舗)併設フリースペース「寄ってこ～家」の活用事業	17
東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア 海の虹プロジェクト in 京都 2013	18

テーマ
2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

エフコープ生活協同組合 バリアフリーイベント「第2回みんなでふくし」	19
特定非営利活動法人 セカンドリーグ埼玉 アレルギーで悩んでいる人を支援するサポーター養成	20
生活協同組合あいコープみやぎ お茶っこスペース「よってがいん」	21
守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会 福島の子どもの保養プロジェクト in 神奈川	22

コモンズ葛西協議会	
近所のホットとする居場所「コミュニティカフェ虹の空」で地域見守り	23
支援者のための支援センターTOMONY	
東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動	24
反貧困、雇用・暮らし・営業をまもる長野地域ネットワーク	
生活困窮者等の相談・支援活動と生活自立支援活動	25
東京西部保健生活協同組合 協同の家	
「協同の家・大原さんち」の改修と生垣づくり	26
いわて生活協同組合	
復興支援のボランティア養成を目的に傾聴ボランティア養成講座の開催	27
特定非営利活動法人 応援のしっぽ	
ものづくりコミュニティの運営支援としての手作り品販路拡大及び事務軽減活動	28
市民生活協同組合ならコープ	
～南部地域産業復興推進大会～ なんゆう祭	29
赤崎復興隊	
赤崎町民主体の復興メイン事業の実施	30
東京西部保健生活協同組合 協同の家	
「協同の家・大原さんち」の台所改修工事	31



女性と子どもが生き生きする

福井県民生活協同組合	
地域と取り組む「祭・イベント」(大野きらめき祭/松本公民館祭)	33
生活協同組合ユーコープ	
子育て応援イベント(ユーコープ湘南辻堂駅前店コミュニティルーム)	34
生活クラブ生活協同組合(虹の街)	
子ども・子育て支援事業2013 ～児童虐待を防止し子どもの人権をまもるために～	35
埼玉ホームスタート推進協議会	
子育て経験者を活用した訪問型子育て支援の普及と 地域ネットワークによるソーシャルキャピタル(人間関係資本)創出事業	36
広島中央保健生活協同組合	
子育て広場「コープのびのびクラブ」	37
生活協同組合コープこうべ	
福島の子ども保養プロジェクト(コヨット!) in よしまキャンプ	38
福井県民生活協同組合 ハーツきつずたけふ	
プレママ期(妊娠期)から地域の中で生き生き子育て	39
常総生活協同組合	
福島原発事故に由来する放射能汚染の実態を把握し、 可能性のある健康被害について予防もしくは低減をはかる	40
生活協同組合コープかごしま	
社会情勢の変化にともない直面している子育てや教育に関する支援活動	41
生活協同組合コープおおいた	
ふくしまっ子応援プロジェクト	42
生活協同組合コープながの	
子育てひろば「ほっとるーむ稲里」 (コープながの子育て支援センター きらきらきつず・いなさと)	43
2013年度 募集要項	44

2013年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

I くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

●松江保健生活協同組合

《協同団体》

- 島根県農業協同組合中央会
- くにびき農業協同組合
- 社会福祉法人 松江市社会福祉協議会
- 松江市地区社会福祉協議会会長会
- 松江保健生活協同組合
- 生活協同組合しまね

●鳥取県生活協同組合

《協同団体》

- NPO法人地域福祉ネット(まちなかサービス)

●消費者信用生活協同組合

《協同団体》

- NPOいわて生活者サポートセンター
- 岩手県・盛岡市社会福祉協議会
- 花巻市・北上市社会福祉協議会
- 盛岡市消費生活センター

●加須ふれあいセンター

《協同団体》

- さいたまコープ
(現:コープみらい さいたまエリア)

●広島県生活協同組合連合会

《協同団体》

- 一般社団法人リエゾン地域福祉研究所
- 生活協同組合ひろしま
- 広島修道大学 ○広島市佐伯区役所
- 中国新聞社 論説委員会

●いばらきコープ生活協同組合

《協同団体》

- 牛久市
- 牛久市社会福祉協議会
- 牛久市地域包括支援センター

●生活協同組合パルシムテム千葉

《協同団体》

- 旭市立第2中学校 ○旭市立第1中学校
- 旭市立中央小学校 ○千葉県立旭農業高校
- 城西国際大学 ○和太鼓 歩 ○和太鼓 初菫
- こどもと一歩の会 ○有限会社サンドファーム旭
- 農事組合法人 村悟空 ○NPO法人 JFSA
- 岡庭氏 ○株式会社パル・ミート
- 株式会社パルライン

●見守りそくしん隊 守山

《協同団体》

- いきいきワーカーズ小幡
- 生活支援ネットちくさ
- コープあいち コープくらしたすけあいの会
- コープあいち小幡店「コープネットいちご」

●みやぎ県南医療生活協同組合

《協同団体》

- NPOふれあいの四季
- 尼崎医療生協

●西都保健生活協同組合

《協同団体》

- 小平民主商工会
- 東京土建小平支部

●生活協同組合ひろしま

《協同団体》

- 八幡東公民館
- 八幡東地区社会福祉協議会
- 一般社団法人リエゾン地域福祉研究所

●東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

《協同団体》

- あやべ新しい田舎の学校
- 綾部市立何北中学校、同PTA
- 古屋でがんばろう会

(12団体) 7,572,800円

2

命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

●エフコープ生活協同組合

《協同団体》

- 福岡市社会福祉協議会
- 福岡市ボランティア連絡協議会
- 福岡市市民福祉プラザ

●特定非営利活動法人 セカンドリーグ埼玉

《協同団体》

- 特定非営利活動法人
アトピッ子地球の子ネットワーク
- 「学校給食」ニュース編集部
- 合同会社ままの*えん
- パルシステム埼玉
- パルシステム連合会

●生活協同組合あいコープみやぎ

《協同団体》

- NPO法人井戸端介護

●守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会

《協同団体》

- 神奈川県生活協同組合連合会
- 神奈川県ユニセフ協会

●コモンズ葛西協議会

《協同団体》

- NPO法人なぎさ虹の会
- 社会福祉法人みどりの郷
- スカイハイツ自治会
- 子育て支援くろーばー
- コープみらい

●支援者のための支援センターTOMONY

《協同団体》

- みやぎ生活協同組合 ○JPCom
- 地域社会デザイン・ラボ
- NPO法人 FOR YOU にこにこの家
- NPO法人 石巻復興支援ネットワーク
- 仙台YWCA

●反貧困、雇用・暮らし・営業をまもる 長野地域ネットワーク

《協同団体》

- 長野県労働組合連合会
- 長野生活と健康を守る会
- 長野県教職員組合

●東京西部保健生活協同組合 協同の家

《協同団体》

- どんぐり育て隊すぎなみ
- 杉並社会保障推進協議会

●いわて生活協同組合

《協同団体》

- 宮古市社会福祉協議会

●特定非営利活動法人 応援のしっぽ

《協同団体》

- みやぎ生協
- みやぎ連携復興センター
- ものづくり交流会実行委員会

●生活協同組合ならコープ

《協同団体》

- 南部地域産業復興推進大会開催協議会

●赤崎復興隊(復興委員会の部会)

《協同団体》

- 赤崎地区公民館
- コープあいち
- 神戸大学
- いわて生協

●東京西部保健生活協同組合 協同の家

《協同団体》

- ぎずなサロンひまわり

(13団体) 7,848,100円

3 女性と子どもが生き生きする

●福井県民生活協同組合

- 《協同団体》
- 大野長生会
 - 天神町婦人会
 - ぼぼぼの会
 - 開成中学校善意銀行など地域の団体

●生活協同組合ユウコープ

- 《協同団体》
- 藤沢市子育て支援課
 - 藤沢市栄養士の会 さつき会
 - 平塚まちづくりの会

●生活クラブ生活協同組合(虹の街)

- 《協同団体》
- NPO法人VAICコミュニティアケア研究所
 - はぐくみの杜を支える会
 - ちば・子育て応援しよう会

●埼玉ホームスタート推進協議会

- 《協同団体》
- コープみらい
 - コーププラザ春日部
 - 本庄市子育て支援課 ○本庄市社協
 - 埼玉県少子政策課 ○共助社会づくり課
 - ニアデザイン ○キリンビバレッジ

●広島中央保健生活協同組合

- 《協同団体》
- 新婦人広島市西支部
 - 広島市西区母親連絡会
 - ふくしま文庫

●生活協同組合コープこうべ

- 《協同団体》
- 公益財団法人 神戸YMCA
 - 兵庫県ユニセフ協会

●福井県民生活協同組合 ハーツきつずたけふ

- 《協同団体》
- NPO法人 子どもセンターピノキオ
 - 助産師ネットワーク たね

●常総生活協同組合

- 《協同団体》
- 放射能から子どもを守ろう関東ネット

●生活協同組合コープかごしま

- 《協同団体》
- 鹿児島子ども研究センター

●生活協同組合コープおおいた

- 《協同団体》
- 大分県社会福祉協議会
 - 大分県ボランティア連絡協議会
 - 杵築市ボランティア連絡協議会、他13団体

●生活協同組合コープながの

- 《協同団体》
- ボランティア講師
 - 長野市ボランティアセンター

(11団体) 5,555,874円

※一部、申請金額より減額により助成とする。

総合計 (36団体/応募:61団体) :20,976,774円

テーマ

1

**くらしを守り、
くらしの困りごとの解決に資する**



松江保健生活協同組合



活動名

地域ケア連携フォーラム実行委員会

協同した団体

◎島根県農業協同組合中央会 ◎くにびき農業協同組合
◎社会福祉法人 松江市社会福祉協議会 ◎松江市地区社会福祉協議会会長会
◎松江保健生活協同組合 ◎生活協同組合しまね
*オブザーバー：島根県社会福祉協議会

活動内容概要

“誰もが安心して暮らせる街づくり”をめざした地域連携ケア・フォーラムの開催実行委員会。



↑ 第3回フォーラム(成果 模造紙)



↑ 第4回フォーラムの様子

他団体と協同することで発見したこと

各団体による連携の必要性を否定する人、団体は、ほとんどいないにも拘わらず、なかなか連携がうまく進まない要因は、山ほどあるように思えます。そうしたなかでは、大義やカタチづくりからだけではなく、まず一人ひとりの想いから一緒に創りたいものをイメージするプロセス、場づくりから考えていくことが大切であるということ。

成果と教訓

成果

ほぼ通年の活動を2カ年間継続し、会を創っていく過程で、それぞれの組織からの問題提起、視点も揃ってきました。フォーラム参加団体のうち複数の団体による参加、支援により①社協、協同組合、地域の諸団体が連携して地域づくり活動(事業)を推進すること、②有償ボランティア組織「おたがいさま」活動を、さらに地域に広げていくこと等を目的とした恒常的な推進を図る組織として「地域つながりセンター(仮称)」が、2014年7月に設立されること、が最大の成果物となりました。

こうしたなか、フォーラム実行委員会についても、従来の実行委員会から協議会に変更し、地域や暮らしから必要とされる日常的な連携の「カタチづくり」にむけ、実践的学習・交流、研究、協議を行っていきこととなりました。

教訓

基本的には、これまで行ってきた場づくりを追求し、それぞれが組織からの代表者として参加するだけでなく、同じ地域に暮らす一市民、一個人として地域や暮らしに向き合うことを重視し(人事異動で参加者の入れ替わりがあることも考慮のひとつだが、型どおりの「会議」、「学習会」を繰り返すだけでは、「自分を開く」創造的な活動にはなり難く、そうした観点から基本を繰り返すことは重要。)、一緒に見る、感じる、考える、そして小さなことでも一緒に創る場、作業を積み重ねること。そうしたことで、「偉い人」を作らず、みんなで一緒に交流し、知恵を出す関係づくりへつながると思います。

将来イメージ

個々の参加団体は、すでに「医療」・「介護」、「地域活動」などに、一定の実績、ポテンシャルを備えており、日常的な連携事業、活動のためのコア組織づくりが大きな課題です。先行する「地域つながりセンター(仮称)」の実践も大いに参考としていきたいです。

鳥取県生活協同組合

活動名

まちなかくらし助け合い活動

協同した団体

◎NPO法人地域福祉ネット（まちなかサービス）

活動内容概要

NPO法人地域福祉ネットと鳥取県生協の事業の協同事業として、夕食弁当宅配とまちなかサービスのコラボ、地域のミニココステーション（商品受け取り施設）と高齢者見守り・暮らし支援を組み合わせた活動です。

※まちなかサービスでは、掃除や料理、買い物代行、除雪作業などの家事を有償で請け負っています。



↑ 米子市のまちなかステーションで行ったミニ試食会の様子



↑ 夕食宅配とまちなかサービスのコラボ「夕食宅配プラス」のチラシ

他団体と協同することで発見したこと

弁当を持って行った“ついで”にという形は少なく、まちなかサービスへの活動依頼に繋がっていること。

成果と教訓

成果

- ステーション周辺は特に高齢者が多い地域であり、「安否確認と見守り」において、地域福祉という視点からすれば行政だけで把握しきれない部分に入ったり、漏れ溢れた介護保険を利用できない方々の受け皿となったり、誰かの目が届くことで事故が防げた事例もありました。宅配食数に増減はあるものの、地域福祉ネット「まちなかサービス」活動開始から依頼が増えました。
- まちなかステーション利用組合員数が去年の2倍に増えました。生活支援のお役立ち件数も年々増えており、2013年度は前年比108%の150件3,900時間の支援を行うことが出来ました。
- 組合員のみならず、まちなかステーションに用事がなくても足を運ぶというような、たまり場ようになっており、大勢の人で溢れています。

教訓

地域の寄り合いの場所をつくることで様々な窓口から支援に繋がる手段となる事を改めて感じました。子育て中のお母さんからは、幼稚園や保育所のお迎えや帰宅してからの見守り、突然の病気の対応などの急な依頼や、高齢の方からは掃除、洗濯、料理や模様替えといった家の中での支援、草取り、庭木の剪定、窓拭き、買い物代行、受診同行といった家の外での支援、その他には墓参りの代行、留守宅の管理、お中元・お歳暮の手配などといった多岐にわたる要望が田舎でも増えており、それに応える必要があります。

将来イメージ

まちなかステーションに集まる方々の中から生活支援や買い物に困っておられる方たちのネットワークができ、「ここに来れば暮らしていける」と思ってもらえる場所になること。

消費者信用生活協同組合



活動名

社会的排除者・金融的排除者に対し、寄り添い支援する

協同した団体

- NPOいわて生活者サポートセンター
- 岩手県・盛岡市社会福祉協議会
- 花巻市・北上市社会福祉協議会
- 盛岡市消費生活センター

活動内容概要

- 「くらしとお金の安心合同相談会」の実施（盛岡開催計4回、北上開催計2回）
- 相談会告知の為にチラシ作製と関係機関への訪問・チラシ設置活動（訪問活動先は、自治体納税課・消費生活センター、地域包括支援センター、周辺地域社協、教育機関、岩手医大等の医療機関、大手企業労働組合等、全84か所に訪問を実施）



↑ 相談会の様子

← 合同相談会の案内チラシ

他団体と協同することで発見したこと

【相談会開催において】

- 協同した団体が持ち合わせている各種制度についての学習ができ、各相談員における相談対応のスキルアップへと繋がりました。
- 相談員同士が面識を持つ事で、日常相談における連携が円滑になりました。
- 協同してもまかないきれない不足な部分を考えることができました。

【告知活動において】

従来、各機関が受持つ業務領域に限定した告知しかできず、複合的な悩みを抱えた相談者は悩み別に相談機関を訪問する必要があったが、共同して告知することでそのような方々に対し短時間で適切なアドバイスができました。

成果と教訓

成果

- 本助成金により告知が充実したことで、より多くの市民に相談会と各機関の活動について周知する事ができました。相談会における相談者数は、相談会開催日前後の予約を含め前年の約2倍の集客となりました。
- 相談会を2会場で実施することができました。
- 相談会を契機に相談員同士の交流が図られ、日常業務が円滑化、相談者満足度の向上へもつながりました。

教訓

- 相談機関の存在やその役割、活用の仕方について、一般に認知されていないこと。
- 一般企業内における職員向けの相談サポート（労働過多や人間関係に起因するストレスから発した依存症問題や債務問題、生活困窮等）に悩む会社経営者や総務担当者等が多いこと。

将来イメージ

- 継続して開催するにあたり、法的なサポートを要する相談にも対応できるように、弁護士会の協力を得られるように調整中です。
- 告知はチラシの設置だけでなく、最近の相談解決事例をまとめた資料を作成し、民生委員や相談機関相談員への学習会等に活用し、広く継続的に周知する活動を行います。

加須ふれあいセンター

活動名

東日本大震災被災者支援地域協同センター加須

協同した団体

◎さいたまコープ(現:コープみらい さいたまエリア)

活動内容概要

東日本大震災による県外避難者が一番集中している地域・埼玉県加須市において空き店舗を活用して、常設の「地域協同センター」を開設。

①サロンの運営、②誰でも利用できる「300円定食」提供、③和服リメイクチームの立ち上げ。

被災者・地域住民そしてステーションを利用する生協組合員さんに当サロンを利用して頂く事により、活動内容の情報発信を重層的におこなうことができました。



↑ 300円定食



サロンの様子 →



↑ 寄り添いコンサートの様子

他団体と協同することで発見したこと

それぞれの団体が個々に開催している「交流会」などに、「双葉の〇〇さんがきていた」「浪江の〇〇さんが来ていた」などの話題が広がりました。

成果と教訓

成果

(旧) 騎西高校が昨年の12月末で閉鎖されたことにより、実態は変わらないのに県外避難者の困難な状況がマスコミに報道されることも大きく減少しましたが、サロンの常設・各種イベントの開催を通じて情報発信をすることができました。

教訓

若い方々との接点をつくることにもっと知恵を絞り、具体的な試行錯誤をしなければなりません。

将来イメージ

現在は①300円定食レストラン、②和服リメイクチーム、③寄り添いコンサート(歌声)の3部門が形になってきましたが、もっと幅広い多様な部門に支えられた「センター」にします。

広島県生活協同組合連合会



活動名

地域での支えあいを生協として推進するため、生協と地域の諸団体で構成する研究会を発足し、地域福祉の指針づくりをすすめる。

協同した団体

◎一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 ◎生活協同組合ひろしま
◎広島修道大学 ◎広島市佐伯区役所 ◎中国新聞社 論説委員室

活動内容概要

行政や多様な団体と連携し、少子・高齢化への組合員ニーズと社会ニーズをふまえた良質なサービスを提供するため、生協と地域の諸団体で構成する研究会を発足し、地域福祉の指針づくりを進めました。



↑ 地域活性化研究会の様子
島根県隠岐郡海士町視察



↑ 神社のしめ縄を若者が締め直したところ



↑ 地域での餅まき

他団体と協同することで発見したこと

- ①行政（広島市佐伯区長）、学識者（中国新聞論説副主幹、大学准教授、社会福祉士）という立場の違う方々から、様々な情報や意見を聞いて論議することで、見識が広まりました。
- ②地域社会において、行政が手を出せないところ、民間企業では対応できないところも含めて生協が活動し、地域へ貢献することへの期待が大きいです。
- ③行政（広島市佐伯区長）から見た生協は、時代の流れについて行けていないという印象がありました。社会に役に立つことはしているが、外部から見ると何をしているのかわからないため、もっと地域に出て、地域と連携し、広報もするべきであると背中を押されました。

成果と教訓

成果

- ①新しいことばかりに目を向けるのではなく、今、生協が持っている資源、インフラをもっと有効に活用することが、地域の活性化につながることに気づきました。
- ②公開講座では、県内生協組合員、役職員、他県生協職員、他団体などから172名が参加し、地域の活性化、ネットワーク化に関して学習しました。
- ③広島市佐伯区湯来町上多田地区の視察では、地域の住民3名、佐伯区職員3名に対応していただき、取り組みの概略、ネットワークがよくわかりました。

教訓

- ①行政や他団体との渉外活動を積極的に行うこと。
- ②生協は、生協の中だけで活動するのではなく、地域社会へどんどん出て行くべき。
- ③各地域で色々な取り組みがあるとわかりました。もっと情報の集約化、広報が必要です。
- ④地域が活性化するには、行政の積極的な関わりと住民リーダーの理解、住民全員が参加すること、外部者を受け入れる風土、ボランティア組織などが必要です。
- ⑤助け合い、支え合い事業を事業化し、継続させる方法を考える必要があります。

将来イメージ

行政と生協、JA等の他の協同組合や社会福祉協議会、NPO法人、ワーカーズコープなどの諸団体が連携して、地域でつながりネットワークを形成し、地域の中で高齢者の出番づくりや子育て支援、子ども・若者が集える居場所を作ったり、住みやすい地域づくりを行います。

研究会の取り組みが良質な地域社会づくりへの貢献となり、生協が医療、介護、消費者行政、地域社会の担い手問題などの政策提言力を持つことで、地域コミュニティの推進に関与します。

いばらきコープ生活協同組合

活動名

牛久市での移動店舗による買物支援・生活支援

協同した団体

◎牛久市 ◎牛久市社会福祉協議会 ◎牛久市地域包括支援センター

活動内容概要

- 移動店舗による買物支援活動
- 牛久市買物支援・支えあいのまちづくり推進協議会を前年度より継続運営
- 行政と地域の諸団体による「地域円卓会議」を実施、活動事例共有と活動方針を論議しました。
- 「経験事例研究会」を実施し、停留所作りに関わった行政区長や諸団体の方からの活動事例報告、情報交換・意見交換を行いました。
- ふれあい便 販売停留所に来られる地域住民の方々を中心に健康教室（学習会）および健康相談会（保健師による個別相談対応あり）や、おすすめ商品の試食、利用客同士の懇談・交流を図る「試食交流会」を開催しました。
- 市高齢福祉課所管『日常生活圏域ニーズ調査』に、茨城キリスト教大学岩間研究室による『フードデザート問題調査』をコラボレーションした調査を実施（対象者は市内65歳以上の約6,500人。2月配布・回収）。調査のまとめは新年度上期末完成予定。



他団体と協同することで発見したこと

- 連携・協同により生み出される大きな力……コープ単独での取り組みでは大変だった停留所づくり・利用希望者探しスムーズに進みました。（停留場所の確保、安定的な利用客の確保）
- 継続的取り組みによる連携力強化……他団体の皆さんとの協同で様々な取り組みを継続的に行うことで、参加される団体のメンバーの方々の“当事者意識”が高まって自発的・積極的な提案・意見をいただくことができるようになりました。（利用希望者に関連する情報提供、ふれあい便健康教室・ふれあい便健康相談会・試食交流会などについての提案、今後の事業活動計画についての提案など）

成果と教訓

成果

ふれあい便について、販売高・利用人数とも着実に伸長しました（2014年3月末現在、50停留所で週約300名が利用、1日平均販売額約6万円。2013年度累計の販売高は、税込1,382万円・延べ利用人数13,049人）。停留所は、牛久市内の61行政区の内、22行政区で設置できました。また、各種イベントに多くの方が参加しました。ふれあい便健康教室（3回開催・合計参加者数約150人）、ふれあい便健康相談会（2回開催・合計参加人数約40人）、地域円卓会議（59人）、ふれあい便試食交流会（5回開催・約50人）、経験事例研究会（37人）。

- 全国消費者団体連絡会『いきいき消費者パートナーシップ表彰』受賞（5月）
- 日本生協連主催『あったか地域づくり交流会』分科会にて活動事例報告（11月）
- 栃木県労働観光部主催『まちなか元気実現講習会』にて活動事例報告（1月）
- 活動内容等の情報共有のため、広報紙『ふれあい便だより』発行（11月より月1回発行開始）

教訓

今後、より一層、地域連携・協同による取り組みを継続し、地域住民の方々や地域諸団体の方々との関係づくりを強めることが重要であること。

将来イメージ

- 2014年度新しくチャレンジすること
 - ⇒従来の停留所づくりに加えて、買物に困っている方の自宅での停留所づくり
 - ⇒電話注文による個別配達

生活協同組合パルシステム千葉



活動名

つなげる+つづける旭の和 ～パルシステムフェア for 復興あさひ～

協同した団体

○旭市立第2中学校 ○旭市立第1中学校 ○旭市立中央小学校
○千葉県立旭農業高校 ○城西国際大学 ○和太鼓 歩 ○和太鼓 初茜
○こどもと一歩の会 ○有限会社サンドファーム旭 ○農事組合法人 村悟空
○NPO法人 JFSA ○岡庭氏 ○株式会社パル・ミート ○株式会社パルライン

活動内容概要

6月8日(土) いいおかユートピアセンター、10月12日(土) 旭市文化の杜公園にて、「つなげる+つづける旭の‘和’2013～パルシステムフェア for 復興あさひ～」を開催致しました。

このイベントは、「旭市(特に被災地域)の方が楽しいコミュニケーションを通して元気になって頂く機会の提供」を目指して昨年に続いての開催となりました。

6月は、地元団体によるステージ(コンサート)をメインに据えて開催しました。地元団体や地域と連携した開催は大きな意義があったと感じています。来場者からは「去年は保健センターだったよね」「今年も来たよ」などお声掛け頂く場面があり、継続して地域と連携してきた結果の1つと実感させて頂きました。

10月は、旭市の小・中・高校4校をはじめ、多くの団体が参加。来場者は600名を超えました。

ステージでは、小中学校の吹奏楽部や和太鼓グループの素晴らしい演奏、城西国際大学学生によるパフォーマンスなど来場者の皆さんの感動を呼ぶライブステージが繰り広げられました。各ブースでは、旭農業高校をはじめ、県内NPO法人や地元生産者、メーカーなどが寄付を募りながら即売会等を実施。子どもブースではお子さん達の笑顔がたくさん弾けていました。

寄付金(売上金や募金)は、10月が104,518円、6月が45,892円で、合計150,410円が集まりました。11月11日(月)に旭市の明智市長を訪問し、災害復興費として市に寄附し、感謝の言葉をいただきました。



他団体と協同することで発見したこと

地元の団体と近隣地域の団体で、復興支援の名の元に共に取り組んだことは、旭市が掲げる「旭市の復興を願う全ての力を集結させ、みんなでひとつのチームとして団結し、協働による復旧・復興を実現します」を体現できたと実感しています。

まさに生協の「協働の精神」がカタチになったことは喜ばしいことでした。

成果と教訓

成果

多くの地域団体と協力できました(14団体)。今までの開催や6月の開催をみて、参加したい団体があったこと。また、当日は老若男女と大勢の方が来場し、笑顔の1日を送ることができました。

教訓

地域団体の連携・協働は、地域の課題解決を目指す弊組合のキーワードであることを再確認できたこと。

将来イメージ

パルシステムは、復興支援活動を方針として掲げています。地元の旭市や福島県、被災のあった地域・団体など様々な支援活動を行っています。継続することが大事と考えています。今後も様々な団体と連携しながら復興支援活動を行っていきたいと考えています。

見守りそくしん隊 守山

活動名

地域のお互いさまの見守り活動・解決支援組織のネットワークづくり

協同した団体

◎いきいきワーカーズ小幡 ◎生活支援ネットちくさ
◎コープあいち コープくらしたすけあいの会 ◎コープあいち小幡店「コープネットいちご」

活動内容概要

①見守り会員の登録を促進し、何かあった時のたすけあい支援を組み立てる、②地域の生活支援・問題解決力を高めるために緩やかな地域の交流組織を組み立てる、を目標に、地域で気軽に立ち寄れる場づくりを応援してきました。

何かあった時に駆けつけ、おかしいなと思ったら情報伝達する「見守り会員」の登録者、98名に広げ、「見守りマップ」を地域に案内しました。電話相談窓口をお知らせし、相談の解決力を高めるために、また、地域の生活支援組織のネットワークづくりを広げるために、交流組織（地域会議）を開催してきました。

他団体と協同することで発見したこと

- ①地域の様々な団体が顔の見える関係で地域のことを話すことで、多くのことが見えてきます。
- ②自分の組織だけでは解決できない問題も、連携により発想が広がり迅速な解決が図られます。
- ③地域への貢献について、組織都合の発想ではなく、「地域や暮らしの現状に対して、組織にはどのような役割発揮が求められているか」という視点で考える大切さがわかってきました。

成果と教訓

成果

- ①見守り会員として守山区西部方面に98名の登録があり、活動が継続できました。
- ②会員による相談事解決や問題を連携して対応することなどの経験が蓄積されてきました。
- ③会員交流会を楽しく年5回開催することができました。
- ④見守りマップ第2弾守山西部版を7,500軒以上の家庭に配布することができました。
- ⑤「おせっかい手帳」を発行でき、会員の日常の意識向上をうながすことができました。
- ⑥引き続き民生委員や社協、包括支援センター、生協、地域組織などとの連携ができました。
- ⑦新たに大規模団地自治会とのつながりができました。
- ⑧社協の「買い物バス」やコープあいちの「移動店舗」などの実践につながってきました。
- ⑨会員交流会の話題をもとに、見守りサロンが1か所増えました。
- ⑩つながりの広がりにより「守山福祉まつり」に企画参加ができました。

教訓

- ①「信頼」が地域づくり、つながりづくり、地域活動のベースであること。
- ②つなぐコーディネーターの発掘が要の課題であること。
- ③さまざまな側面から問題を把握することで、組織の枠を超えた解決力が実現すること。
- ④個人情報取り扱いも含め、情報をどう伝え合うかが大切な課題であること。
- ⑤何事も継続することが重要であること。



↑ 作成した「おせっかい手帳」と「みまもりマップ」

将来イメージ

【今後の中期目標】

- 守山地区西部から中部にも広がる見守り会員活動
- 相談、見守りのネットワークを拡充
- 「フードバンク」活動の試行と高齢者介護施設、障がい者施設との連携作り
- コーディネーター（つなげ役）の配置と人材育成のための財政の確保

みやぎ県南医療生活協同組合



活動名

被災者への健康づくりや相談とふれあい活動

協同した団体

◎NPOふれあいの四季 ◎尼崎医療生協

活動内容概要

地元NPO団体と山元町の仮設住宅集会所8か所を月2回巡回し、コーヒーやお茶を飲みながら、健康チェックや健康相談、健康体操「脳いきいきトレーニング」などを開催しました。開催にあたっては近畿地方の医療生協に、専門職（看護師、介護福祉士）の派遣を月に1回お願いし、もう1回は、県南医療生協のボランティアスタッフで取り組んできました。

会場にはコーヒーコーナーと健康チェックコーナーを設け、前半の1時間は、参加された被災者と茶話会での懇談や健康チェック（健康相談、傾聴）をしました。その後、健康体操、脳いきいきトレーニング、歌、ゲームなどを行いました。



↑ 仮設住宅でのふれあい活動の様子



↑ 「やまもと花釜秋まつり」の様子

他団体と協同することで発見したこと

NPOふれあいの四季は、山元町での高齢者福祉に関する活動をしている団体で、2年間にわたって一緒に活動し、山元町での被災者の現状や震災後のまちづくりについて意見交換をしてきました。今後も医療生協としてできる「健康づくり」を被災地で続けていくことがますます必要になると考えています。

成果と教訓

成果

震災直後から、地元NPOふれあい四季や近畿ブロックの医療生協とともに継続している支援活動は、2年以上になりました。この間、被災者との信頼関係により、仮設住宅から災害公営住宅へ移っていた被災者や自宅再建した被災者から、「健康チェック」や「健康づくり」への要望が寄せられ、2013年12月からは、仮設だけでなく、災害公営住宅や在宅被災者への支援活動へと支援の場が広がりました。他団体と一緒にすることで、継続が可能になり、信頼も多く寄せられるようになりました。

仮設住宅でのふれあい活動では、1回の参加者10～20名×22回開催、のべ300名が参加しました。また、10月に開催した「やまもと花釜秋まつり」では、NPOふれあいの四季や全国の医療生協の支援も受け、500人以上の参加で被災者どうしの交流が深まりました。

教訓

震災直後から、継続して近畿ブロックの医療生協が支援にくるために様々な努力をしてくれたことや、NPOふれあいの四季の皆さんに山元町との連絡調整をしてもらったことに、改めて感謝します。みやぎ県南医療生協の支援活動が、今日まで継続できたのは、協力してもらった多くの団体の力があってのことです。長期に継続するには、様々な団体との協力が必要です。

将来イメージ

2014年度は、NPOとの共同での支援活動はなくなります。また、近畿ブロックの医療生協の定例支援も終了することになりました（不定期での支援活動は継続の予定）。しかし、被災地での医療生協の役割は、今まで以上に必要となっています。単協だけの支援活動の継続は、ボランティアスタッフの増員や職員の参加など課題が多く非常に困難だと思いますが、被災者の皆さんの要望をくみ取りながら、「健康づくり」の輪を広げていきます。

西都保健生活協同組合

活動名 年末なんでも相談会

協同した団体 ◎小平民主商工会 ◎東京土建小平支部

活動内容概要

困っている人の相談相手になり、専門家などへ繋ぐ役を担う「くらしの相談員」を養成する講座を実施し、のべ23名の相談員を養成しました。講座では、生活保護に対する認識の是正、具体的な介護、労働、年金相談などの内容の理解と対処方法などを学びました。そのうえで、12月21日に地域の方々向けに相談会を開催しました。

相談会には、「くらしの相談員」のほか、三多摩法律事務所から2名が応援に駆け付け法律相談、さらに顧問税理士や小平市議会議員が相談スタッフとして参加。相談内容は医療・介護、生活、法律、労働、税金、年金、住宅、など幅広い分野にわたりました。

電話も含めて16件の相談が寄せられ、生活保護につなぐケースや相続問題などの非常に重い相談が多く、今後も引き続き関わっていくことになりました。

↑ 作成したカラーチラシ

他団体と協同することで発見したこと

民間の専門家とは違い、消費者の立場で住宅問題や経営問題、税金問題をアドバイスする視点をもっており、相談者も親しみやすく和やかな相談会となりました。また、弁護士の応援は相談をする側の安心感にもつながりました。

成果と教訓

成果

養成講座は外部講師を迎えたことで、より具体的な事例を学ぶことができました。また講座と連動したことで、組合員および専門家（税理士、弁護士、看護師、介護士）の関わる人数も増え、活動が活発化しております。事前宣伝では、カラーチラシを既存ルート以外に団地、近隣住宅へポスティングしたため、事前相談や予約が入ってくるようになりました。

教訓

小平駅前で開催したところ近場からの申込みは少なく、やや遠方からの申込みが多かったことから、深刻な相談内容の場合、相談会場の近所のひとは相談しにくいことがわかりました。今後、相談会は様々な場所で開催することが必要と考えています。

将来イメージ

2014年度は組合員から「くらしの相談員」を養成する活動をさらに広げ、今年度同様に年末なんでも相談会を12月に開催する予定です。また、弁護士事務所とのタイアップもおこない、月ごとに会場を変えて法律&生活相談会も広く開催する予定です。

生活協同組合ひろしま



活動名

コープ五日市北（生協ひろしま店舗）併設フリースペース「寄ってこ〜家」の活用事業

協同した団体

◎八幡東公民館 ◎八幡東地区社会福祉協議会 ◎一般社団法人リエゾン地域福祉研究所

活動内容概要

1. サポーター養成を目的とした「ハッピーリタイヤ&地域デビューセミナー」の開催
2. 「寄ってこ〜家」活性化のためのミニイベントの開催
3. 地域の居場所「寄ってこ〜家」の積極的活用促進、周知、買い物のついでなど気軽に立ち寄れる居場所として近隣住民に活用していただくことを目的に、コープ五日市北（生協ひろしま店舗）内に「寄ってこ〜家」を設置。1年が経過し、今後さらなる住民同士の良好な人間関係の構築と、身近な生活課題の解決や閉じこもり防止など、「寄ってこ〜家」の安定的な運用を目指す取り組みを推進しました。



他団体と協同することで発見したこと

1. 「寄ってこ〜家」の周知、声かけが拡大し、多くの住民の認知につながりました
2. 生協が行う地域福祉の役割や生協らしさ、得意分野が明確になりました。
3. 共通する住民ニーズの確認ができ、具体的な取組方法が向上しました。
4. さらなる十分な説明と、サポーター養成など具体的な働きかけの必要性を確認しました。

成果と教訓

成果

1. 「寄ってこ〜家」への参加意識の向上
「寄ってこ〜家」ミニイベントの開催（3月5日、7日、14日、28日 計4回 参加者55人）
2. サポーター養成を目的とした「ハッピーリタイヤ&地域デビューセミナー」の開催
（2月17日、2月24日、3月3日、3月17日、3月24日 計5回 参加者数92人）
3. 生協ひろしまが取り組む地域貢献「寄ってこ〜家」の認知度の向上
新聞折り込みの活用、公民館行事案内チラシへの掲載（毎月発行）
4. 関係団体との協働

教訓

1. 地域の居場所の参加意識をあげるためには、福祉課題解決を誘因とするより「楽しさ」を前面に出すほうが認知されやすいことがわかりました。今後、参加意欲につながるイベントの企画提案が必要だと実感しました。
2. 地域貢献としての実施が理解されることで参加意識が高まり良好なイメージとなりやすいため、店舗スタッフをはじめ関係団体との役割分担などの合意形成、および推進会議による定期的な進捗確認が重要だと思いました。
3. 参加者同士の友好的な人間関係づくり、コミュニケーションづくり、相互理解や、人を集める企画立案、実施に至るまでサポーターのコーディネート能力が重要となります。現在サポーターが、生協ひろしま外の地域住民で少人数であるため組合員の積極的な関わりなどを後押しするために生協ひろしまの働きかけも必要だと感じました。

将来イメージ

サポーターの増員と店舗の協力を得て運営体制の強化をめざします。音楽、文化活動など、近隣地域で活動する諸団体の協力を得ながら、活動拠点としての運用をはじめ、生協ひろしま独自の組合員活動の拠点としての活用とあわせて、地域包括支援センターの協力を得ながら、閉じこもり防止、介護予防の観点から気になる高齢者の受け入れなど、具体的な近隣互助活動の創出に努めたいです。またコープ五日市北のほか、引野、山手を含めた生協ひろしまの地域福祉活動「寄ってこ〜家」のメインブランド化を図ります。

東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

活動名 海の虹プロジェクト in 京都 2013

協同した団体 ◎あやべ新しい田舎の学校 ◎綾部市立何北中学校、同PTA ◎古屋でがんばろう会

活動内容概要

『海の虹プロジェクト』という名称で、宮城県南三陸町の3つの中学校（歌津・志津川・戸倉）から中学生57人を京都に招き、4泊5日の日程で京都の中山間地を中心舞台としてキャンプを実施しました。



他団体と協同することで発見したこと

今回の協同活動を通して、過疎化、高齢化、獣害の波の中で、村を自分たちが生きている限り守っていこうというあらたな決意が生まれました。子どもたちに、「自分たちも誰かを応援する力があるんだ」ということに気付いてほしいという思いで計画した『海の虹プロジェクト』でしたが、そこにはもっと深く、もっと大きな意味があったのだと感じています。

成果と教訓

成果

- ①参加した中学生57人。京都生協ボランティアスタッフのべ160人。協力いただいた団体、地域のボランティアスタッフのべ80人
- ②宮城県南三陸町の中学生たちに、自立すること、挑戦すること、助け合うこと、人々のつながりを大切にしていくことについて、考えるきっかけをつくることができたと考えます。
- ③設置した京都の山深い中山間地の2つの農村（志賀郷と古屋）での活動を通して子どもたちには高齢化、過疎化、獣害などの困難な中でも様々な人々が地域の保全と再生にむけて努力を重ね、着実に前進していることを確かに知ってもらえたと思います。そして、自分たち自身の中にもそんな力がほんとうはあるんだということに気付いてもらえたように思います。

教訓

30人程度の中学生の参加を想定し参加者を募集しましたが、最終的に参加者は57人となり財政的にも運営上も大変厳しい状況になりました。次回以降は「定員」の設定が必要だと感じました。

将来イメージ

わたしたちが二年半にわたって支援活動を続けてきた宮城県南三陸町では、復旧、復興にむけた取り組みが少しずつ動き始めているとはいえ、その道のりはまだまだ遠いものです。わたしたちは被災したすべての人々をこれからも応援し続けるのはもちろんのこと、とりわけ子どもたちに対してある意味「特別な応援」が必要であると考え、これからも子どもたちを見守り、応援し続けていくために、この取り組みを継続していきたいと考えます。また、可能であれば「ちいさな子どもたちを抱えるお母さんたち」や障がい者など、とりわけ「弱い」立場にたたされている人々を対象とした取り組みも何か行っていきたいと考えています。

テーマ
2

**命を守り、その人らしい
生き方ができるようにする**



エフコープ生活協同組合



活動名

バリアフリーイベント「第2回みんなでふくし」

協同した団体

◎福岡市社会福祉協議会 ◎福岡市ボランティア連絡協議会 ◎福岡市市民福祉プラザ

活動内容概要

地域の中で、しょうがいを持った方とそうでない方が共に楽しむイベントが少ないため、昨年度に引続き第2回となるバリアフリーイベントを開催しました。

イベントでは、映画上映・手話ダンスの発表会・車いす体験コーナーの設置、授産施設の販売会のほか、コープ商品の試食会、エフコープでの福祉や共済の取り組み等を知っていただくブースも出展しました。他団体からは手話教室、盲導犬のデモ、絵本の読み聞かせをおこないました。



↑ ステージで手話ダンス



↑ 左からあつぷるちゃん、盲導犬、コーすけ



↑ 盲導犬デモ



↑ 生協商品の試食コーナー

他団体と協同することで発見したこと

今回は2回目の開催だったため、昨年の振り返りをいかしたスムーズな運営になりました。昨年度同様、協同団体である福岡市社会福祉協議会、福岡市ボランティア連絡協議会、福岡市市民福祉プラザの協力なしでは実施できず、イベントの成功は他団体との協働の成果であったと総括しています。こうした協同を進めることの中から、エフコープの活動を広く知って頂けることにもなり、そこから新しいつながりや取り組みが更に生まれてくることを実感しました。

成果と教訓

成果

来場者は第1回より増え500名ほどに参加いただきました。また今年は新たに「福岡市市民福祉プラザ」からも共催いただけたことで、第1回では使用できなかった1Fロビーも広く活用することができ、参加者からは当日、大変喜んでいただくことができました。また参加スタッフも交流の輪が広がったことで、協同団体からも感謝の声があがっています。エフコープが地域での福祉の取り組みへ大きく関わられたことは、大変意義があったと考えます。

教訓

イベント会場が各階（1F～6F）の会議室で開催しているため、1Fホールでの発表会時にどうしても集客がままならない面がありました。また、階によっては、人の動線上どうしても行きにくい面があったようです。次年度以降は再度運営を検討します。

将来イメージ

次年度以降もこの企画は継続してまいります。徐々に規模を拡大し、参加者に喜ばれる取り組みになるようにしていきたいと思っております。

特定非営利活動法人 セカンドリーグ埼玉

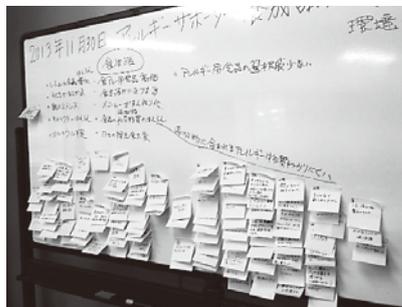
活動名 アレルギーで悩んでいる人を支援するサポーター養成

協同した団体 ◎特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク ◎「学校給食」ニュース編集部
◎合同会社ままの*えん ◎パルシステム埼玉 ◎パルシステム連合会

活動内容概要

アレルギー問題に取り組む事業者、団体、個人を対象にした学習会を開催しました。その後、学習会参加者が自主的ネットワークとしてアレルギーサポートネット埼玉 (ASネット埼玉) として活動することになりました。

ASネット埼玉では卒業制作として、外出先でも食事できるメニュー開発と地域の理解を深めていくことを目的に、地域ごとにチームに分かれ「食物アレルギーの人が食べられる食事を提供してくれるレストラン」の開拓と、アレルギー用の食事を日常メニューに取り入れてもらうよう依頼することを足掛かりにして、地域のアレルギー対応レストランマップの作成を目指して活動することになりました。



他団体と協同することで発見したこと

サポーター養成講座では、今年度の新たな試みとして外部団体の活動状況を共有したことで、アレルギーを取り巻く課題の全体像がよく見えるようになりました。その結果、昨年度よりも広い視野での意見交換がおこなわれるようになり、進歩と考えています。

成果と教訓

成果

ASネット埼玉の参加者が困ったときや悩んだとき、いつでもサポートできる体制をとるため、セカンドリーグ埼玉とアトピッ子地球の子ネットワークも参加するメーリングリストの運用を実施することになりました。また活動に寄り添い支援していくために、セカンドリーグ埼玉とアトピッ子地球の子ネットワークで今後の連携支援についても確認しています。

教訓

前年度ははじめの基礎講座だけでサポーターの役割について説明するのみで、参加者はそれだけでは到達点を理解することはできないことがわかりました。なので、今年度は講座全回を通してサポーターの認識を深めていくことに注力しました。その結果、参加者がサポーターとしての役割を理解したうえで、どのように活動するかを自ら考えられるようになりました。

将来イメージ

ASネット埼玉を中心にサポーターを増やし、自主的な活動を支援していきたいと考えています。

生活協同組合あいコープみやぎ



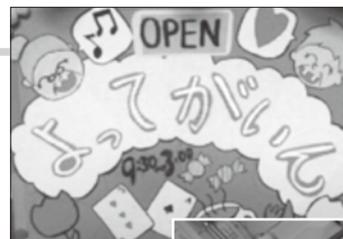
活動名 お茶っこスペース「よってがいん」

協同した団体 ◎NPO法人井戸端介護

活動内容概要

石巻市渡波地区は、津波でほとんどの家屋が全壊しました。この地域で、被災された高齢者や障害を持つ方など、どなたでもこの地域で寄り合えるサロンを作りました。週3日（月・水・金）9時から15時のサロンでは、集う人々が自分たちで昼食を作り、看板作り、健康体操、などを通じて心身ともにリラックスし皆が笑顔でいられる居場所を作りました。

また、地域の人との交流を深めるために共生ケアを語る会を開きました。地元扎根していくため、2013年12月にNPO法人化及び介護事業指定を受け共生ケアを始めました。



他団体と協同することで発見したこと

あいコープみやぎの組合員は、支援者としてスタッフとともに活動をする中で、チームワークと各々の役割をスタッフや利用者の声を聞き、ともに考えながら進めることの大切さを学びました。自組織だけでなく他団体と協力することで「よってがいん」の活動は、継続的に行うことができていると思います。

成果と教訓

成果

●地域サロン活動(週3回)

定期的開催により利用者交流も深くなり地域に定着してきました。また、あいコープみやぎ組合員による昼食作り支援は、スタッフや利用者へ聞きながらともに活動を進めることができました。毎回の昼食作りでは、時々季節感を味わうことができました。

●共生ケアを語る会

共生ケアとは何かをNPO法人井戸端介護代表に話を伺いました。宮城県内で共生ケアに関心のある人々が集まり、他団体との繋がりが更に広がりました。

●他団体による支援

あいコープみやぎの生産者で工場が石巻渡波地区にある丹野商店のご支援や交流も始まりました。千葉県善良寺の皆さんは、ボランティアとして度々訪れ交流をしています。善良寺からは学生ボランティアも同行して、「よってがいん」は次世代を担う子どもたちにとっての学びの場ともなっています。

教訓

地域の人々とより深い理解のもとで繋がるためにも、週3回のお茶っこスペースのみだけでなく、共生ケアを語る会などを通じた企画は共感を呼び、次の企画へと繋がることになりました。

地域サロン「よってがいん」は、利用者にとってかけがえのない生活の場となっています。被災地である石巻渡波地区において、どなたでも気軽に訪れることができる居場所になることは、コミュニティー再構築に繋がると考えています。

将来イメージ

今後も積極的に地域の人々へ活動のお知らせと参加を呼びかけ、より地域に根ざした活動に取り組みます。また、他団体の事業所などでもスタッフ研修を行い、共生ケアを学び、実践することでお年寄りや障害を持つ人だけでなく、誰もが安心して暮らせるような居場所にしたいと思っています。

守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会

活動名

福島の子どもの保養プロジェクト in 神奈川

協同した団体

◎神奈川県生活協同組合連合会 ◎神奈川県ユニセフ協会

活動内容概要

福島県内で放射線量の高い地域で生活している子どもたちに、子ども本来の姿を取り戻し、心の健全な発育につながることを目的に、神奈川に来て、普段することができない外遊びや自然を体験してもらいました。今年度は3月27日～31日で実施しました。

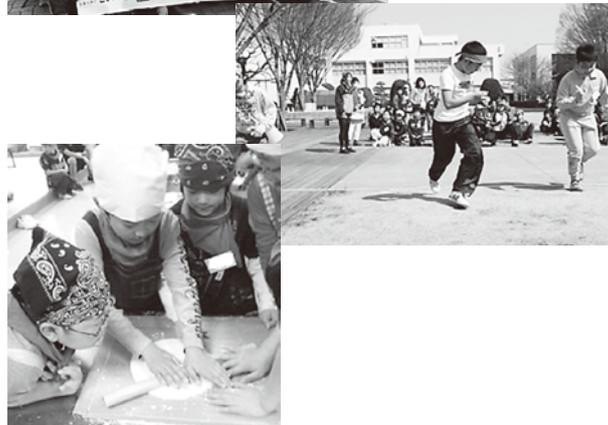
3月27日：福島から移動し、神奈川県相模原市に到着

3月28日：東京工芸大学で「ステレオビューア」体験、ミニ運動会、天体観測

3月29日：うどん打ち体験、宇宙科学研究所(JAXA)見学、音楽会

3月30日：カレー作り体験、外遊び、おみやげ作り、アルバム作り、キャンドルファイヤー

3月31日：福島に向けて移動、帰宅



他団体と協同することで発見したこと

団体ごとに得意分野で力を発揮していただくことで、より奥の深く充実したプログラムを組むことができました。具体的には、生協は食育に絡んだプログラムを担当し、医療生協では子どもたちの健康管理を担当していただきました。また大学生には、子どもたちの年齢に近いことを生かし、グループや部屋の管理、子どもたちの相談相手になってもらいました。

成果と教訓

成果

様々な団体にかかわっていただく事で、食に関係したプログラム以外に、JAXAへの訪問や大学での体験学習を実施することができました。また、首都圏ではすでに東日本大震災は過去のものという風潮がありますが、今回の活動に準備から関わり改めて震災はまだ終わっていないという事を実感した方が多かったです。震災の事を風化させないためにもこれらの活動は今後も必要だと認識していただきました。

- 前回の保養プロジェクトに関わった人数：およそ200人
- 今回の保養プロジェクトに関わった人数：229人

教訓

関わった団体が多かったため、情報の伝達や活動に対する意識の統一が必要と認識しました。また、子どもたちとの接点となる大学生の参加が多いと、子どもたちに安心して過ごしてもらえることがわかりました。

将来イメージ

福島の子どもの保養は今後続けていかなければならない活動です。子どもだけの受け入れ、親子での受け入れ、学校単位や部活単位など、様々な構成が考えられます。今後、学校関係者や企業等へも福島の子どもの受け入れる活動が広がっていくことを期待しています。

コモンズ葛西協議会



活動名

近所のホッとする居場所「コミュニティカフェ虹の空」で地域見守り

協同した団体

◎NPO法人なぎさ虹の会 ◎社会福祉法人みどりの郷 ◎スカイハイツ自治会
◎子育て支援くろーばー ◎コープみらい

活動内容概要

コミュニティカフェを起点に顔の見える仲間を増やし、孤立しがちな高齢者や障がい者と共に生きる社会を作りました。また「地域見回り」や「やまびこ電話」で地域から孤立死を出さない取り組みを行いました。人材育成講座を通し、元気な高齢者のスキルアップを図り地域での役割を肌で感じ共生社会づくりを行いました。高齢者や障がい者が安心して外出できる安心マップ、コミュニティカフェチラシ、相談支援パンフレットを作製しました。



他団体と協同することで発見したこと

協同した5団体それぞれの得意分野で協議会や講座、カフェでのカルチャー運営をおこなうことで、専門知識の重要性を再認識するとともに、今自分たちに足りないところが見えてきました。また活動を通して、自分たちの取り組みがこれからの日本に欠かせないものであると確信できました。

成果と教訓

成果

コミュニティカフェには毎月300名の方が足を運び、高齢者、障がい者や子育て中ママの憩いの場になり、地元になくはない存在となりつつあります。人材育成講座には120名もの参加があり、その方たちの半数がカフェや助け合い活動、デイサービスなどでボランティアをしてくださいました。お出かけマップ5,000部、カフェチラシ1,500枚をそれぞれ作成し、地域の病院や生協店舗、コミュニティ施設、地域包括支援センターなどで配布しました。障がい者相談支援パンフレットは500部作成しました。

地域見回り（週2回）、やまびこ電話（週1回）は継続し、当該地域では孤立死や不審者の事故などは発生していません。

教訓

様々な催しを行った結果、今までの自分たちの仕事に上乘せされた、メンバーの疲労が増してしまいました。また、各講座やカルチャー準備にエネルギーと時間を使い切ってしまう、終了後のフォローがまだ追いついていないため、アンケート結果を来期につなげたいと思います。

将来イメージ

団塊世代が後期高齢者となる2025年問題まで約10年。社会保障費の増大により、介護保険も制限されるため、行政に頼らず、自分たちにできることは自分たちで考え動く自助、共助を貫ける街にしたいと思います。

今後もコモンズ葛西協議会参加団体を少しずつ増やし、医療介護専門家とのネットワークも発展させ、安心して歳をとり自宅で人生の終わりを迎えることができるような地域包括システムを確立していきたいと思います。

支援者のための支援センターTOMONY

活動名

東日本大震災の被災者支援に取り組んでいる人を支援する活動

協同した団体

◎みやぎ生活協同組合 ◎JPCOM ◎地域社会デザイン・ラボ
◎NPO法人 FOR YOU にこにこの家 ◎NPO法人 石巻復興支援ネットワーク ◎仙台YWCA

活動内容概要

- ①「支援者のための支援」の周知啓発活動（随時）
 - ホームページ・メディア媒体による情報発信
 - 県内のこころのケアに取り組む団体との情報共有
- ②支援者のための支援の場の提供
 - 支援者のためのリフレッシュプログラム「内沼の蓮・遊覧、花山お楽しみバスツアー」「弘前りんご狩りバスツアー」の開催
 - 「支援者のための『TOMONYカフェ』『TOMONYサロン』」の開催
- ③フィンランドメンタルヘルス協会（FAMH）との交流およびワークショップの開催
- ④事務局会議（月1回）の定例化



他団体と協同することで発見したこと

東日本大震災により被災しながら支援活動にあたる支援者、生活への直接的な被害はなくとも地道に支援活動を続けてこられた地元支援者、県外から駆けつけて住み込みで活動している支援者。今、宮城にはさまざまな立場の支援者がいますが、それぞれにストレスや疲労を実感しており、具体的な「支援者への支援」を求めていることが、さまざまな立場で支援活動を行っている団体との協働および情報共有の中で明らかになりました。また、各々のネットワークを駆使して「支援者への支援」に関する情報発信や、具体的な支援の提供に結び付けることができました。

成果と教訓

成果

- ①支援者が集まり交流できる「TOMONYカフェ」の定期開催を通して、支援活動や支援者に関心をお持ちの方々と対話することで「支援者の支援」を、さらに広げることができました。またそれをふまえて「スーパーバイザー研修」の内容改善もおこないました。
- ②福島県でも「TOMONYサロン」を開催し、県外へも活動を広げることができました。
- ③計画的に事務局会議を開催し、企画の策定、実施、運営、振り返り等を行い、限られた時間の中でも効率的に活動を進めることができました。また、みやぎ生協から事務所の無償提供を受けることができました。
- ④各スタッフの活動や日本生協連主催「第2回あったか地域づくり交流会」での事例発表、コープこうべ広報誌掲載、NHKラジオ放送、朝日新聞・河北新報記事などを通して、活動をより多くの人に伝えることができました。
- ⑤FAMHのテキストを翻訳し、支援者の支援についての一端を学ぶことができました。この中で、大学の先生などの専門職とのつながりもできました。
- ⑥TOMONYのミッションを知らせるツールであるセルフチェック「こころとからだのサプリメントブック」を作成できました。

教訓

フィンランドメンタルヘルス協会（FAMH）とのプログラムが2年目を迎え、より理解が深まりました。その中で、大学関係者（専門家）とのつながりができ、活動が広がっています。

将来イメージ

今年度も引き続き、TOMONYのミッションに取り組んでいきますが、支援者のエンパワメントがより高まるように、支援者どうしのつながりづくりを意識した交流会企画や、マッサージやアロマといったセルフケアのノウハウを学ぶ企画も検討してまいります。

反貧困、雇用・暮らし・営業をまもる長野地域ネットワーク

活動名

生活困窮者等の相談・支援活動と生活自立支援活動

協同した団体

◎長野県労働組合連合会 ◎長野生活と健康を守る会 ◎長野県教職員組合

活動内容概要

- 生活困窮者を対象とした月1回の相談会。
- 日常的な生活困窮者の居場所（里庵みんなの家）の運営。
- 月2回の無料学習支援（きずな塾）の運営。
- 朝日健二氏（NPO法人朝日訴訟の会）講演会の共催。
- 越冬企画としての年末年始年越しきずなの事務局運営。
- 雨宮処凜氏（反貧困ネットワーク副代表）講演会の主催。



↑ 講師 朝日健二氏



他団体と協同することで発見したこと

里庵みんなの家の活動における布草履づくりや料理教室、お茶の会では、新たな個人・団体との協同をつくることができましたが、その中で貧困問題が未だ社会的認知を得られていないことを実感しました。「長野市にそんなに困っている人がいることを初めて知った」という感想が出たことから、今回の取り組みを継続することで、貧困問題を地域に広くお知らせする機会になっていることを実感しました。

成果と教訓

成果

- なんでも相談会11回（相談30件、同時開催の交流会当事者70名）
- きずな塾27回（子どもの参加225名、サポーター参加231名）
- 里庵みんなの家開所日数198日（利用者950名、ボランティア386名）
- 第3回信州きずな村（全体参加者264名、相談7件）
- 朝日健二氏講演会 参加250名
- 雨宮処凜氏講演会 参加100名

教訓

今年度は生活困窮者の支援においては行政との連携も重要と考え、長野市厚生課とのケースカンファレンスを数回行い、支援方法を共に考える機会を持つことができました。

無料学習支援（きずな塾）の運営では、貧困世帯の子どもたちは、無料学習支援の場所を開いて待っているだけでは参加まで至らないため、こちらからの積極的なアプローチが必要と考えました。そのため長野市厚生課にチラシを届け、生活保護世帯の子どもへの紹介をお願いすることにしました。

将来イメージ

生活困窮者の相談・支援活動の協同を広げるとともに、取り組みの新たな担い手ともつながっていきたいです。将来的には子どもの居場所づくり、緊急宿泊、シェルター事業を行っていきたいです。

東京西部保健生活協同組合 協同の家

活動名 「協同の家・大原さんち」の改修と生垣づくり

協同した団体 ◎どんぐり育て隊すぎなみ ◎杉並社会保障推進協議会

活動内容概要

11月6日(水)に東北で「いのちの防潮林」づくりを進める宮脇昭氏による講演と苗木づくりの指導を行いました。首都直下大地震が起きた場合、木造密集地域を有する杉並区は火災等で深刻な被害が予測されます。常緑広葉樹の防火効果は甚大であり、木を植え被害を減らし、安心して住み続けられる杉並区を作ることを目指します。地域で木を植え育てることは孤立予防に最適のため、防火林づくりを主に担うのは高齢男性がよいと考えています。

第1部 講演「防火・防災のために 次の世代のためにいま、杉並に木を植えよう！」

講師 宮脇昭氏 (横浜国大名誉教授)

会場 セシオン杉並

第2部 苗木づくり指導

会場 「協同の家・大原さんち」



他団体と協同することで発見したこと

杉並区には木造密集地域が多数存在し、震災時に深刻な火災被害が予想されています。有効な防火の手立てとして、植樹の意義を地域に広めることができました。また今回の取り組みのなかで、防火に関心の高い団体、組織が新たにわかりました。

本活動では杉並区の高齢者施策課、危機管理室、公園課などを訪問しました。区議会各政党にも説明を行い、学習会のポスター掲示は城南信用金庫はじめ協同組合に依頼するなど、広く参加を呼びかけることができました。

成果と教訓

成果

首都直下型地震の被害想定が出されるなど、防火・防災に関する都民の関心も高まっているなか、本分野の有識者である宮脇昭氏の講演会を開催したり、杉並区の事例を東京エリアの医療生協の活動交流会で発表することで、周囲での本活動の意義は着実に認識され深まっています。

教訓

高齢者、特に一人暮らし男性高齢者は閉じこもりの傾向が強く、社会参加の場づくりが求められています。今後、高齢者が激増する東京では、男性が社会参加を進める上で畑仕事や植林は最適な活動であることがわかりました。また常緑広葉樹を植えることは、防災、孤立予防、環境保護、世代交流の観点からも極めて有効であることを学びました。

将来イメージ

どんぐりを拾い、ポットに植え、育てることの意義を行政にも知らせ、常緑広葉樹を植える市民運動を広げたいです。近年、行政が特定の公共財について、市民や民間業者と定期的に美化活動を行うよう契約する「アドプト制度」が広がっておりますが、本事業も男性が地域社会へ参加できる場づくりのモデルとして進めていきたいです。

いわて生活協同組合



活動名

復興支援のボランティア養成を目的に傾聴ボランティア養成講座の開催

協同した団体

◎宮古市社会福祉協議会

活動内容概要

東日本大震災の復興支援活動として取り組んでいる「ふれあいサロン」の被災地での開催ボランティアを増やすことを目的に「傾聴ボランティア講座」を企画し、開催地域を宮古以外に釜石、大船渡に広げて実施しました。また、「ふれあいサロン」活動への理解とボランティアを増やしていくためのツールとしてDVDを作成しました。



他団体と協同することで発見したこと

- 社協やボランティア団体等のお知らせの協力もあり、これまで生協の活動に関わりのなかった方々にも参加いただきました。
- ふれあいサロンへの参加の機会になったことと生協の支援活動について知っていただく企画にもなりました。

成果と教訓

成果

①傾聴講座：宮古15人、釜石13人、大船渡21人、計49人の受講

②現在のサロンボランティア数と開催箇所

宮古28人、4チーム4箇所

釜石19人、2チーム2箇所

けせん35人、6チーム6箇所

*現時点では、傾聴講座を受けてサロンボランティア登録していただいた方は7人。

今後も、サロンの情報を提供し、協力を呼びかけていきます。

*けせんでは、ボランティアが5人増えたことと地域の要望に応え、開催箇所を2箇所増やします。

教訓

企画を地域にお知らせする時期が、当初の予定よりずれたことによって参加の呼びかけが十分にできなかったことや他団体との協力で行うにしてもお知らせ期間が厳しかったことなど、助成申請内容と助成の決定の時期の整合性をきちんと計るべきだったと反省しています。

将来イメージ

被災地では、継続して「ふれあいサロン」のような定期的な支援活動を行っている団体が減ってきています。復興公営住宅や自力での住宅再建など、仮設から出られる方も増えてきていますが、先の見通しがつかず不安に感じている方もまだまだ多くおり、今後はより一層お一人お一人に寄り添った活動が望まれ、地元の団体として生協への期待もますます高くなっています。そうした中、被災地のボランティアを増やしサロンの開催箇所を拡げていきます。

また、参加者の方々が自分たちで集まり、サロンのような場が作れるように「支援し開催するサロン」から「ご一緒に行くサロン」へ移行しながら、被災地のサロンではなく、地域の「ふれあいサロン」として開催できるようにしていきます。

特定非営利活動法人 応援のしっぽ

活動名

ものづくりコミュニティの運営支援としての手作り品販路拡大及び事務軽減活動

協同した団体

◎みやぎ生協 ◎みやぎ連携復興センター ◎ものづくり交流会実行委員会

活動内容概要

東日本大震災各地(岩手、宮城、福島)にて、ものづくりを核とするコミュニティ群を、その各商品の情報の一元化・一括購入窓口の設定・リクエスト受注体制の確立を通し、主に企業のノベルティ等の支援を検討する組織への販路拡大につなげて運営の支援をしています。

- みやぎ生協との協働カタログ「新手作り商品カタログvol.1」の制作
- ギャラリーショップ「もなおくんち」及び受注発送代行センター運営
- 販売サイト「もなおくんち」の運営



他団体と協同することで発見したこと

みやぎ連携復興センターを含むものづくり交流会実行委員会のメンバー団体には、情報の集約・拡散において、多大な協力をいただきました。ひとつの団体の人脈や広報先にはある一定の限界やベクトルが存在しますが、多団体連携においては、限なく情報発信ができ、また入ってくるため、情報量の出入りが予想以上に増えることが分かりました。また、みやぎ生協とのカタログ製作においては、支援先である作り手さんの支援団体との距離感も十人十色であるため、お互いに近い作り手と打ち合わせを行い、紹介しあうことで、信頼を急速に培うことができ、つながりの輪を広めることができました。

成果と教訓

成果

- コミュニティの存在把握：ものづくりコミュニティ把握数62団体(福島・岩手含む)、うち継続性があり、支援先として妥当と思われるコミュニティ数42団体、今回のカタログ掲載及び流通にのせることができる商品をもつコミュニティ数、26団体28プロジェクト(作り手などスタッフ合計数約300名)
- 売上：3月14日現在、売り上げは約90万円(団体平均 約34,600円)
- 広報：メディア掲載件数、9件(ネット記事含む)
- 影響：作り手のモチベーションの増大、コミュニティ継続への後押し、高齢の作り手の引きこもり防止

教訓

連携・協力を深い関係性をもって行うためには、どこがスケジュール管理を行うかを予めしっかり決めておかないと、予定がどんどんずれ込むことが分かりました。また、お互いに遠慮しあう構図がみられたので、次回からは、遠慮なくはじめからスケジュールの調整をしていきたいです。

将来イメージ

ものづくりコミュニティの組合的な窓口としての組織形態。具体的には、コミュニティからの相談業務、对外発信業務、外部支援団体や企業との橋渡しなどです。また、積極的な企業営業も行い、購入を待っている状態から、購入契約を結びに行く体制を整えていきます。

市民生活協同組合ならコープ



活動名

～南部地域産業復興推進大会～ なんゆう祭

協同した団体

◎南部地域産業復興推進大会開催協議会

活動内容概要

紀伊半島大水害からの復興のため、南部地域特産品の生産・販売の振興と、地域の風土・歴史・文化に根ざした魅力を発信する「なんゆう祭」を開催しました。南部地域12市町村の物産展や、8年ぶりに開催されるそま人選手権大会、大滝ダムの見学会など、盛りだくさんのイベントを実施しました。



他団体と協同することで発見したこと

県内であっても、なかなか川上村まで足をむける機会がない中、吉野共生を掲げる奈良コープとして、その地に実際足を運びきっかけを作ることができ、またイベント準備期間から何度となく、南部の住民と話をすることができました。

成果と教訓

成果

- 開催期間（2日間）好天に恵まれ参加人数目標3,000人を大きく超えて成功しました。
ならコープ39（サンキュ）フェスタも含め、企画別参加人数は、のべ4,950人でした。
- ならコープグループの集客力（動員力）について、県知事、川上村長をはじめ各自治体関係者から高い評価をいただきました。
- 参加した奈良教育大学生協、奈良女子大学生協、奈良県立大学生協の学生委員からは、深層崩壊の現場を間近で見て説明を聞いたからこそ、「なんゆう祭」に参加した際に現地の人たちの協力の強さや人のつながりの深さを感じるとの感想が出されました。
- 「スローライフフォーラム in 水源地のむら川上」は、実践的な活動が良く伝わり好評でした。

教訓

- オープンな地域のまつりに奈良県内外から人を呼ぶ組織力、企画のプロデュース力を磨くことで、ふだんの企画の注目度もかわってくるかとは思います。
- 経費のかけ方を考えることは重要だと感じました。

将来イメージ

「なんゆう祭」開催に向けての準備（取り組み）の中で県、南部地域自治体、特に川上村との信頼関係が構築された事を今後の吉野共生プロジェクト活動に、活かしていきたいと考えます。地域とつながって何が出来るかは、地域ごとに住民と行政の思いや行動があつてこそだと思います。縁のできた地域と話をする機会を何度か設けながら、地域にならコープが受け入れられる形を模索していきたいです。

赤崎復興隊

活動名

赤崎町民主体の復興メイン事業の実施

協同した団体

◎赤崎地区公民館 ◎コープあいち ◎神戸大学 ◎いわて生協

活動内容概要

①「町民運動会」

10月12日、被災流失した元赤崎小学校グラウンド(市民グラウンドとして整備)を会場に、震災で中断していた赤崎町9地区の親睦を深める地区対抗運動会を開催しました。



②「フラワーロード花畑づくり」

9月には赤崎復興隊主催の「赤崎復興市」を開催(町民を含め約500名参加)し、JA愛知経済連とJAあいち知多から届いた花の苗を会場に集まった町民が1苗50円のカンパで購入し、プランターに自分の名札を付けて植え付けを行いました。

10月には赤崎中サッカー部員と赤崎復興隊の約50名で、JA愛知経済連とJAあいち知多から届いた球根と花の苗をフラワーロード(花畑)に植え付けを行いました。



他団体と協同することで発見したこと

- ①住民が結成した赤崎復興隊が中心となって、震災で開催が困難になったコミュニティの年中行事を、継続的に支援・交流を深めて来た外部団体とともに取り組んだことで、相互の信頼関係がさらに深まりました。
- ②仮設住宅とのつながりが深かったコープあいちは、運動会を通してそのつながりを赤崎町全体の住民へとより広げることができました。
- ③他所の人が入ってくることの少ない地域で閉鎖的な生活をしていた町民が少しずつ心を開いて来ていると思いました。

成果と教訓

成果

- ①地元住民200名、神戸大スタッフ50名。コープあいち17名、いわて生協2名。

災害離散により参加町民は従来の半数に留まりましたが、以前は参加することのなかった外部団体約70名が参加しました。

- ②地元住民300名、神戸大スタッフ50名。コープあいち1名。

コープあいちの提携業者(JA愛知経済連、JAあいち知多)も協力し、チームが中心になって話し合い開催準備をすすめました。

教訓

住民離散で町内会費が集まらず、地元だけで実現困難な課題も、外部の力を積極的に活かすことにより可能性が広がることを学びました。ともに汗を流し、食事をしながら交流することで住民とのつながりが深まりました。

将来イメージ

赤崎復興隊の集いを定期的で開催し、また先進地を視察して産直施設(身近に使える店舗)の構想、被災跡地に運動公園をつくる構想等の実現をめざしていきたいです。被災町民による手しごと品や、町内の自然の恵みを活かした海産物(養殖含む)や農産物の生産と販売を、赤崎町のコミュニティ事業(六次産業)として取り組んでいきたいです。

東京西部保健生活協同組合 協同の家

活動名 「協同の家・大原さんち」の台所改修工事

協同した団体 ◎きずなサロンひまわり

活動内容概要

2014年4月より杉並区和田1丁目にある、作家の大原富江（故人）の旧宅を管理している高知県本山町から東京西部保健生協が借用し、だれでも気軽に立ち寄れるたまり場として運営をスタートしました。今回、台所の改修工事として、台所とトイレの間仕切りを移動して台所を広くし、床の張り替えや壁紙も張り替えました。



他団体と協同することで発見したこと

ポスター・チラシを作り広報に努めましたが、申込みが無く、サロン参加者から誘われて参加された方が多かったです。組合員のネットワークが機能すると大きな力になる事を実感しました。

成果と教訓

成果

- 食堂として保健所の許可が下りるような改修ができたことで、広く地域に開かれた施設になりました。
- 台所が広く使いやすくなり、複数の人数で台所の仕事が出来るようになりました。
- 食器戸棚の設置も出来たことで、食器も揃えられ、月1回の食事会も出来るようになり、2月には「雛御膳」をつくり好評でした。
- 他のサークルや購買生協の試食会も出来るようになりました。

教訓

今回は、女性に多く参加いただきました。男性の参加者を増やすために、男性に準備から参加していただく方がよいと思いました。また押しつけになってはいけないことなどを学びました。今後、「男性高齢者の健康講和」なども取り入れてみたいです。

将来イメージ

食事作りのボランティアや、いろんなサークルの利用者が増えれば「大原さんちカフェ（仮称）」も夢ではなく、高齢者の見守りや、生きがいにつながる施設になると思います。

テーマ

3

女性と子どもが生き生きする



福井県民生活協同組合



活動名

地域と取り組む「祭・イベント」(大野きらめき祭／松本公民館祭)

協同した団体

◎大野長生会 ◎天神町婦人会 ◎ぽぽぽの会 ◎開成中学校善意銀行など地域の団体

活動内容概要

連携①【大野きらめきまつり】

県民せいきょうの福祉施設「大野きらめき」の夏まつりを世代間交流(高齢者と子ども)の推進と団体どうしの交流を深めることを目的として開催しました。地元の老人会(大野長生会)、天神町婦人会、開成中学校、善意銀行をはじめ、地元地域の多くの団体と企画内容や当日運営まで協同して開催し、多くの地域の方にご参加いただき、楽しんでいただきました。



連携②【松本公民館まつり】

松本公民館親子向け事業「松ぼっくり」～ママと子ども楽しい時間～のイベントに、8月と9月の2回参加しました。公民館で毎月、地域の若いお母さんを対象に当イベントが企画され、様々な団体が参加していました。せいきょうブースの取り組みとしては、8月は災害時でも役に立つ「空き缶コンロ」でごはんを炊き、お昼ごはんに食べていただきました。9月は「オリジナル布バッグ」として写真をプリントしたバッグ作りを行い、参加者に楽しんでいただくことで、生協PRもあわせて行うことができました。



他団体と協同することで発見したこと

- 福祉施設「大野きらめき」は限られた方を対象にサービスを提供していますが、まつりを開催することで地域の方から親しみを持っていただけるようになりました。
- 地域のお母さんを対象にした企画を実施することで、未来の生協活動を担う世代に、生協へ関心を持ってもらうことができました。

成果と教訓

成果

- 実施にあたり、高齢者と学生が協同して企画運営することで、世代間の交流が深まりました。
- 地域の若い世代の方に、生協の取り組みに親しんでいただける場の提供が出来ました。
- 次年度以降も生協と関係が継続できる関係を築くことができました。

教訓

当初は大規模イベントを予定していましたが、地域の中で取り組む視点で、企画を地域密着型に変更したため、それぞれの団体と状況に応じた関係づくりを進めることができ、より深い関係を構築することができました。

将来イメージ

地域の方の憩いの場・交流の場を提供するために、地域との協力や積極的な交流を促進することで、地域から愛され信頼される生協としていきます。

生活協同組合ユーコープ

活動名

子育て応援イベント(ユーコープ湘南辻堂駅前店コミュニティルーム)

協同した団体

◎藤沢市子育て支援課 ◎藤沢市栄養士の会 さつき会 ◎平塚まちづくりの会

活動内容概要

- 地域ニーズの高い「食育講座」(幼児食・離乳食・パパの食育)の開催
- 行政、諸団体と連携し、子育て世代へ有用な「子育て講座」(育児講座・子育て世代の防災・女性のエンパワーメントに向けた連続講座)



他団体と協同することで発見したこと

- 地域他団体と交流することによって、お互いの団体の活動を理解することができました。
- 昨年春に出店したコープ新店のコミュニティルームを会場にしたことにより、コープの活動や会場の使用について他団体の方にも理解していただくことができました。
- 他団体の方も、子育て中の方の生の声を知ることができました。

成果と教訓

成果

- 子育て応援プロジェクトの目指すところをしっかりお伝えすることができました。
- 支援者側の参加により、平塚、茅ヶ崎、藤沢の子育て層情報の共有や横のつながりの大切さを感じることが出来ました。また、講師と参加者が情報を共有することができました。人数がちょうどよく参加者自身の質問をお子さんのいる講師が回答することで、満足度が高い講座を開催することができました。

教訓

- 参加者の募集に苦労しました。ホームページや店頭チラシ、ポスターで募集を行いましたが、インパクトのある呼びかけが弱かったと思います。費用対効果も考えながら宅配でのチラシ配布も検討する必要があったと思います。
- 講師の方との打ち合わせの時間が不足し、メールでのやり取りが多く、細部にわたる打ち合わせが不足していました。時間をとって面談での打ち合わせが必要でした。

将来イメージ

駅前立地の特性を生かした店舗の立地から、子育て層を含む幅広い層の方々が防災や子育ての情報共有や学習の場として気軽にいつでも参加でき、それぞれがお互いに悩みや情報を共有できるような場となってほしいです。

生活クラブ生活協同組合（虹の街）



活動名

子ども・子育て支援事業2013 ～児童虐待を防止し子どもの人権をまもるために～

協同した団体

◎NPO法人VAICコミュニティケア研究所 ◎はぐくみの杜を支える会 ◎ちば・子育て応援しよう会

活動内容概要

- (1) 児童虐待の「発生予防」活動
 - ・子育て支援講座（生活クラブ虹の街・VAICコミュニティケア研究所）
- (2) 児童虐待の「早期発見・早期対応」活動
- (3) 児童虐待の「保護・支援」活動
 - ・講演会の開催（生活クラブ虹の街・VAICコミュニティケア研究所はぐくみの杜を支える会）
- (4) アンケート活動



他団体と協同することで発見したこと

子育て支援講座やフォーラムでは、複数団体で企画・立案することで、講師やパネラーの幅が広がりました。また、参加への声かけも多角的に行うことができました。

成果と教訓

成果

【子育て支援講座】

- ・雑誌などの情報が氾濫し、何がよくて何が悪いのか判断がつかなくなり子育てに不安を抱えているお母さんに対して「固定観念を持たず、その子の持つ自我を大切に见守って育てて欲しい」と語りかけ、それぞれの子育てがあってよいという安心感を与えることができました。
- ・ブックトークではお母さんたちにも絵本の魅力を堪能してもらうことができ、絵本をとおして子どもとの貴重な時間を楽しむ心をお母さんたちに伝えることができました。
- ・子育ての悩みについては、講師が適切なアドバイスをすることで、お母さんたちの表情が生き生きとしていく姿が見られました。子育て支援講座の最後の回でしたが、今後もこのような会を開催してほしい・したいの要望が多くあり、次につながる活動になりました。

【講演会の開催】

「虐待としつけの線引き」「虐待防止のためにできること」「通報義務」などについてパネルディスカッションを行い、当日のアンケートから「児童虐待について改めて考えさせられた」や「考えるきっかけをもらった」などの感想が寄せられました。千葉市の後援をいただいたことで、千葉市からの参加もあり、行政の取り組みについて話をきくことができました。

教訓

- ・乳幼児をもつお母さんたちは学ぶ場や悩みを外に出す場を求めていることがわかりました。
- ・フォーラムの参加者ターゲットについては、多世代を意識しながらも子育て中のお母さんたちに多く参加してほしいと思っていましたが、子育てをひと段落した方の参加が目立ちました。いつでも自分にも起こり得ることだと実感できることや、開催日時の設定、題名の付け方など、もう一步深い議論が必要でした。
- ・中高生を主体とした活動（子どもの居場所）では、自主的に参加する中高生を集めることが大変難しいことがわかりました。

将来イメージ

- 子育て支援講座終了後も参加したお母さんたちが中心となり毎月1回程度、現在も集まりを持っています。今後、グループとして子育て層が定期的集まる場を作っていきたいです。
- 児童虐待に関するフォーラムや講演会を各地で開催し、オレンジリボンキャンペーンを広め、児童虐待の予防・防止をより進めたいと思います。

埼玉ホームスタート推進協議会

活動名

子育て経験者を活用した訪問型子育て支援の普及と
地域ネットワークによるソーシャルキャピタル(人間関係資本)創出事業

協同した団体

◎コープみらい ◎コーププラザ春日部 ◎本庄市子育て支援課 ◎本庄市社協
◎埼玉県少子政策課 ◎共助社会づくり課 ◎ニアデザイン ◎キリンビバレッジ

活動内容概要

1. 「訪問型子育て支援ホームスタート普及講演会」の開催
2. ホームスタート普及のための学習会
 - ・少人数での、ホームスタートの導入などに関する説明や検討をする学習会
 - ・大きな研修会やイベント等で、参加者に向けてホームスタートについて説明
3. 活動に関する情報交換
 - ・参画行政による、財源確保のための説明や情報交換等
 - ・実施団体による、訪問状況の報告等
4. 訪問の質を担保するための研修
 - ・大学教授を講師に招いての研修会
 - ・各団体から活動上の迷いなどの事例、ホームスタートの仕組みの確認等の研修
 - ・オーガナイザースキルアップ研修への参加
5. 立ち上げ支援、問い合わせへの対応



他団体と協同することで発見したこと

同じ活動に取り組む団体同士の協同は、情報交換の頻度を上げ、ネットワークの関係性の強化深化につながり、活動及び個人、組織全体スキルアップ効果を発揮し、訪問支援活動の質を上げるのに大いに貢献しました。異業種の団体との協同では、枠を越えたアイデアが生まれ、利用者となる当事者層から子育て支援関連団体にとどまらない活動の多角的な普及周知、活動の質を担保するための専門的研修の機会の積極的確保、また、制度化に向けた庁内の戦略作り、実際の制度化、企業の社会貢献寄附による活動資金獲得等、積極的な活動基盤整備促進につながりホームスタートの充実のみならず組織の持続可能性を開くことまでにつながりました。

成果と教訓

成果

- 研修や情報交換などによって各団体の活動が活性化し、活動地域での周知がひろがり支援件数が増加しました。また研修を重ねることで訪問の質が向上しました。
- 行政を交えた推進委員会の開催により活発な情報交換が行われ、影響を与え合いサポートし合う充実したネットワークができました。その結果ホームスタートの意義や実績が評価され、活動団体のホームスタート事業が制度の中に新たに位置づけられることに大きく貢献できました。

教訓

- 中身のある協同(一緒に事業を行うこと)は形骸的ではない実質的なネットワークの形成につながる
- 多様な協同は、想定以上の波及効果をもたらすこと

将来イメージ

- 埼玉県内各市町村半数にホームスタート事業を整備していきたいです。
- 協同するネットワークに企業などの団体も含まれて、引きこもりがちな親子も地域で支えるイメージ、まちづくりをホームスタートをキーに行っていきたいです。
- 安定的に訪問活動を行えるためには制度化が促進されていくことも必要と考えています。

広島中央保健生活協同組合



活動名 子育て広場「コープのびのびクラブ」

協同した団体 ◎新婦人広島市西支部 ◎広島市西区母親連絡会 ◎ふくしま文庫

活動内容概要

地域の子育て中の家族が集まり、子育てや健康についての情報交換をしたり、利用者同士がつながりを持てる場として2013年4月10日より、毎週水曜日10:00～12:00に子育て広場「コープのびのびクラブ」を開設しました。

活動内容は以下のことを目的としながら、基本は自由に遊ぶことのできるオープンスペースですが、開催時間2時間のうち毎回30分程度のプログラムを行いました。



- 家庭では経験する機会の少ない遊びを紹介することで、親子のふれあいの機会をつくり、一緒に楽しむ。
- 広島中央保健生協から専門家(小児科医・看護師・保健師・保育士・歯科医師・歯科衛生士など)が子育てや健康についてアドバイスを行う。
- 他団体にリズム遊びや絵本の紹介、読み聞かせ、貸し出しを行ってもらうことで地域とのつながりを深める。
- 核家族で子育てをしている父親・母親はもちろん、お孫さんを預かる祖父母も、子どもと一緒に安心して過ごせる場をつくる。

他団体と協同することで発見したこと

のびのびクラブは各団体が自由に自分たちの子育て支援活動を紹介できる場としたので、参加者のお母さん方に「広く情報収集ができる」と、とても喜んでいただきました。また、当初の協同団体の他に地域を拠点に活動されている助産師さんの協力による母乳育児相談・株式会社アイクレオの栄養相談など、専門的な分野の相談会を設けることもでき、当生協単体で活動するよりも幅広い支援を行うことができました。毎回のミニ企画では、新婦人広島西支部の方々にリズム遊びを担当して頂いたり、ふくしま文庫の方には、絵本の読み聞かせ、西区母親連絡会の方には見守りボランティアを担って頂きました。

成果と教訓

成果

当生協の病院から産科がなくなって10年近く経過しました。それまであった子育て班やサークルは片手で数えるほどにまで少なくなり、若い世代と生協のつながりが薄れていました。今回、地域ささえあい助成によって、子育て中のお母さんたちが気軽に利用できる子育て広場をオープンすることができました。当生協の強みである健康の専門家によるサポートを期待したり、毎回のミニ企画を楽しみに来られる方も多数いらっしゃいます。特に評価できる点としては、この広場がお母さん同士が繋がらう場、お母さんたちが一息つける時間として利用されているところだと思っています。

教訓

新しい取り組みを始める際、生協だけで完結させようとするとう限界点が低くなったり、取り組み自体をあきらめたりしかねません。しかし、他団体と協同することで不可能が可能になったり、可能性が広がったりするを経験することが出来ました。生協の魅力は協同にあると思います。組合員との協同、他団体との協同など様々な協同があります。生協の魅力を改めて実感することが出来ました。

将来イメージ

2015年9月、新病院オープンに伴い、広場を開催している建物の2階に「生協こどもクリニック(仮称)」を開設します。小児科医や看護師、院内保育園の保育士たちとより連携が取りやすい環境になる予定です。

生活協同組合コープこうべ

活動名

福島の子ども保養プロジェクト(コヨット!) in よしまキャンプ

協同した団体

◎公益財団法人 神戸YMCA ◎兵庫県ユニセフ協会

活動内容概要

日程：2013年7月28日(日)～8月1日(木)

会場：神戸YMCA余島野外活動センター

(〒761-4100 香川県小豆郡土庄町字余島)

内容：海水浴、キャンプファイヤー

選択活動(カヌー、カヤック、釣り、アーチェリー、森遊び等)、

野外調理(7/31コープこうべ組合員ボランティアと共に)

行程：福島～岡山：新幹線、岡山～余島：大型バスチャーター及びフェリーを使用



他団体と協同することで発見したこと

協同した神戸YMCAは、受入側のボランティアリーダー(=カウンセラー・プログラムスタッフ)についても次世代のリーダーを育成するという目的を持って、このキャンプに臨んでいました。引率やプログラム実施におけるルール徹底(点呼、荷物の置き方)やバス内で子どもを飽きさせない工夫(歌、ゲーム)などの経験やノウハウを伝達するだけでなく、参加した福島の子どもたちと共に成長する存在としてボランティアリーダー自身にも日々課題を課し、見守る姿勢が素晴らしいと感じました。結果、10代の高校生、20代の大学生・社会人の大きな成長も感じるキャンプとなりました。

成果と教訓

成果

1. 費用について

2013年度の福島の子ども保養プロジェクト実施費用については、2012年度(2013年3月)に「福島の子ども保養プロジェクト支援募金」活動を実施し(結果：511万1,878円)、多くの組合員の賛同により、保養費用を捻出することが出来ました。

2. 参加者について

2012年度と比較して、参加者・支援者の数が増え、輪を広げることができました。

福島大学の学生がボランティアリーダーとして入ることは、参加者である福島の子ども達にとって、より身近な大人と接することになり、今後の将来像を描く上で大きな意義があると考えます。また、兵庫県に居住する若いボランティアリーダーにとっても、東日本大震災や阪神・淡路大震災について考える良い機会となりました。

教訓

企画に迷いが生じた時に立ち返るために、協同団体内で「保養実施の目的」「優先順位」を明確にしておくことが必要です。今回も、キャンプの準備において、コープこうべは子どもたちと組合員との交流に備え細かい段取りをしていましたが、当日の天気や子どもたちの疲れ具合を考慮して、プログラムやスケジュールを変更しました。調整する際は、「福島の子どものためにはどうすることがベストか?」を基準に検討・選択することが出来ました。

将来イメージ

参加した子どもたちが高校生になった時にリーダーとしてコヨット!に関わり、福島の未来を担う仲間づくりに繋がる活動に発展していただければ、と考えます。

福井県民生活協同組合 ハーツきっずたけふ

活動名 プレママ期（妊娠期）から地域の中で生き生き子育て

協同した団体 ◎NPO法人 子どもセンターピノキオ ◎助産師ネットワーク たね

活動内容概要

近年、少子化や核家族化により子育てにおける地域の役割が重要となってくるなかで、子育て支援に関わる者として地域とのつながりを深めることが必要となります。

地域の子育て支援センター同士が連携し、子育て中の親子が生き生きと笑顔で過ごしていける環境づくりとして、『母親が気軽に相談できる場』『友達をつくったり情報交換ができる場』を提供するため、プレママ講座、ベビーマッサージ講座、ファミリー運動会を開催しました。



他団体と協同することで発見したこと

- 協同することで、単体で活動するよりも幅広い支援ができることを実感しました。
- 子育てを支援しあう地域づくりとしての役割を担っていることを発見しました。

成果と教訓

成果

- 日頃、各々の方面で子育てに携わっている団体同士が連携することで情報交換ができました。
- お母さんの参加が多いマッサージ講座に、お父さん向けの講座を設けることで、日頃お母さんに任せきりになりがちなのこの時期の赤ちゃんとの関わり方をお父さんに学んでもらえる機会を提供できました。

教訓

- 今回、初めての取り組みとして協同での活動を行い、多方面からの情報や意見を交え検討することで、参加者のニーズをふまえた活動へと発展していけることに気づかされ、日頃からのネットワークの大切さと痛感しました。
- 「なぜその活動をしようとしているのか」という趣旨をしっかりと伝えきれていないと、活動に対する取り組み姿勢に差が出てきてしまうことがわかりました。

将来イメージ

今回の活動に基づき、様々な子育て支援を展開してきましたが、残念ながら私たち支援者側が利用してほしいと思う対象者にうまくとどいていない現状があります。

今後はさらに連携の幅を広げていけるように「地域」や「人」を結ぶネットワークの強化を図っていき、家庭での子育てを超えて、地域ぐるみで子どもを守り育てあっていくような、新しい地域社会作りへと結びつけていきたいと思えます。

常総生活協同組合

活動名

福島原発事故に由来する放射能汚染の実態を把握し、可能性のある健康被害について予防もしくは低減をはかる

協同した団体

○放射能から子どもを守ろう関東ネット（以下、関東ネット）

活動内容概要

「関東ネット」参加の茨城・千葉・埼玉の各団体で生活範囲の放射線量を計測。計測結果の発表をもって、地域の市民とりわけ子育て世代が現状を把握できるよう情報を発信しました。健康被害と予防・低減対策やエネルギー問題について、“放射能の影響と私たちが選ぶ未来”を共通テーマとして学習・講演会・映画上映会等を行い地域の市民、主に子育て世代の母親たちへ提案しました。



他団体と協同することで発見したこと

関東ネットと当生協の供給エリアはほぼ同じですが、主に母親達の団体が多く、各地域の市民へのお知らせ等がスムーズに出来、参加者数アップの効果がありません。また講演会等の内容の企画の際には、母親目線で参加者の知りたいことを盛り込むことができ、より良いイベント開催になったと思えました。

成果と教訓

成果

汚染地域での健康について考えるというテーマから、地域で語り合える雰囲気づくりができるよう、比較的小さな集まりを意識しました。その結果、参加者が意欲的に質問したり、小さな集まりではお互いに意見交換出来たり、一方通行ではない学習・講演会を行うことが出来たと実感しています。一番参加者数の多かった1/25に実施した講演会のアンケート結果では500名中266名の回答があり「良かった」89%「参考になった」68%と満足度が高く、また「被ばくから子どもを守るためには甲状腺エコー検査など健康調査・保養や移住の必要性を感じた」という声を多く頂きました。今後どのような健康影響があるかは誰にも分からない現状だからこそ、「調べる・予防する」ことの重要性を意識できるキッカケ作りが出来たと思えます。

教訓

協同した「関東ネット」が36団体のネットワークであるため、各地域でさらにきめ細かく展開できたらよいと思えました。現役子育て世代の母親たちが主な活動メンバーのため、会議を開くにも全員が集まることにも困難がありました。

将来イメージ

放射能汚染の問題は、今後も日本中で起こりうる災害のひとつでもあります。ひとりひとりが考えていく問題であり、「汚染状況重点調査地域」の私達が全国に先がけ、地域の問題として今後も取り組んでいきたいものと感じています。

当生協では今後、“安心安全に暮らせる『クールスポット探し』”のための計測を広げていきたいと考えています。また、当生協と「関東ネット」は、子ども達の健康調査にも積極的に関わっていることもあり、実態調査にもとづいた「安心できる情報」を伝えていけると自負しております。来年度はその「安心できる情報」をお伝えすることで疑問や不安を解消して、地域での暮らしをより明るくするつどい『知る見るCafe』を実施します。また様々な地域情報や実態調査に基づく情報を盛り込んだ資料『知る見るLeaf』を作成・配布したいと考えています。

生活協同組合コープかごしま



活動名

社会情勢の変化にともない直面している子育てや教育に関する支援活動

協同した団体

◎鹿児島子ども研究センター

活動内容概要

これまでの子育ての悩みを先生と1対1の個別面談で支援する方法から、地域の組合員どうしで、気軽に悩みや相談したいことをメンバーとの交流や地域組合員へ呼びかけての交流、調査、学習を通じて解決できるグループ活動づくりの支援を行いました。



他団体と協同することで発見したこと

初めての子育てに悩むお母さんたちへの支援だけでなく、学童／思春期の子どもを持つお母さんの悩みを解決できる場づくりを企画する必要性を実感しました。また、このような場に出てこれられない方に対しての支援が、本当は求められており、必要だということ学びました。

成果と教訓

成果

「子育て支援」の取り組みに参加された方より、「実話が興味深く、たいへん勉強になった」「自宅でもやってみよう」「子育て支援を活用することが子育てのポイントだと分かった」「悩みを相談することでリフレッシュできた。また参加したい」など、たくさんの声をいただき、子育てに悩むお母さんたちへ支援ができたことを実感しました。

教訓

小さな子どもを連れての学習会などへの参加は託児があっても参加しにくいいため、親子で一緒に参加する企画で学んだり、交流する企画は、参加しやすく広がりをつくることができると感じました。また、時期的にも冬場より軽装で動ける時期のほうが参加しやすいという意見があったので、今後の企画づくりの参考になりました。新たなグループ作りでなくても、子育てひろばや既存の活動組織への参加に繋がることで、子育て相談の活動（支援）につながるようです。

将来イメージ

今回は鹿児島市だけでの取り組みでしたが、全県に子育てに悩んでいる方がいらっしゃいます。生協と他団体が協力しあって支援活動を広げる必要があると思いますのでこれからも活動を継続していきたいです。

生活協同組合コープながの



活動名

子育てひろば「ほっとーむ稲里」
(コープながの子育て支援センター きらきらきっず・いなさと)

協同した団体

○ボランティア講師 ○長野市ボランティアセンター

活動内容概要

2013年3月に、コープながの稲里店の横に「コープながの子育て支援センター きらきらきっず・いなさと」を開設し、子育てひろば(月～土 10時～15時)と幼児一時預かり(月～金 9時30分～16時30分)を通し、子育ての支援をしています。

同センタースタッフによる定期イベントのほかに、地域のボランティア講師による「ベビーマッサージ・ベビーヨガ講座」などの子育てイベント、ボランティアグループによるパネルシアター上映会を開催しました。



他団体と協同することで発見したこと

開設1年目をいうことで、スタッフは子育てひろばを開催することも、イベントを開催することも初めての経験でした。その中で、地域ボランティア講師や、長野市ボランティアセンターに登録しているグループによる子育てイベントを行うことで、スタッフだけでは行えない専門性の高い企画や、楽しいアイデアがあふれる企画をおこなうことができました。

成果と教訓

成果

- 「ベビーマッサージ・ベビーヨガ講座」では親子のふれあいだけでなく、同年代の子どもを持つ母親同士の交流が生まれました。また現役看護師である講師へ、子育ての悩みを相談したり、参加者同士で情報交換する様子も見受けられました。パパのためのベビーマッサージ講座も開催し、父親と子どもがふれあう機会を設けることができました。
- ボランティア講師とともに行った「おえかきイベント」は好評だったため、今後も継続できるようにと、子育て支援センタースタッフ主催で2014年度も企画しました。

教訓

- 広く地域に知っていただくための広報方法の工夫
- イベント開催にあたってのそれぞれの役割分担や、企画内容の確認など事前打ち合わせの重要性
- 地域や長野市ボランティアセンターとの連携を図ることの重要性

将来イメージ

地域の子育て応援の発信地として、単独ではなく、他団体、地域や行政との連携を図り、さまざまな角度から子育て分野での地域貢献を目指していきたいです。

地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

2013年度募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。

コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。

その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して
地域の暮らしを向上させる活動を支援します。

全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

応募期間 2013年1月10日～2月10日

1 対象となる活動のテーマ

①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」

例

地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

例

病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

③「女性と子どもが生き生きする」

例

子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

①～③のテーマいずれかに該当し、かつ生活協同組合とNPO等が協同して力を発揮することのできる取り組みであること。東日本大震災の支援に関わる上記テーマの活動については、選考で優先して取り扱う場合があります。

〈対象とならない活動〉

- 生活協同組合同士の活動(100%子会社も含む)
- 生活協同組合単独もしくはNPO単独の活動
- ①～③のいずれのテーマにも該当しない活動(環境問題等)

2 対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記全てを満たす団体を対象とします。

生活協同組合または、その他のNPO法人等

- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 次の①、②いずれかを必須とします。
 - ①生活協同組合以外の団体が応募する場合には、活動内容が生活協同組合と協同して行うものであること
 - ②生活協同組合が応募する場合には、生活協同組合以外の団体と協同して行うものであること
- 選考の過程で、事務局より生活協同組合に電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。

3 対象となる活動期間

2013年度は、2013年3月21日～2014年3月20日の間に実施する活動が対象です。



4 助成内容

助成上限額は、1事業あたり30万円程度～100万円です。助成総額は2500万円を予定しています。

当年度において、1団体あたり1件のみ応募することができます。テーマや活動内容が異なっても、複数件の応募をすることはできません。

◆助成の対象となる費用

- 活動に直接関わる経費(資材費、消耗品購入費、旅費、交通費、借上費、印刷製本費など)
 - 謝礼金(講師謝礼、指導料など)
- ※ただし、活動に直接関わる団体スタッフの賃金は対象外です(下記参照)

◆助成の対象にならないもの

- 賃金
- 飲食費、接待費
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

5 選考

以下の選考基準に基づき、外部有識者やコープ共済連関係者などで構成される審査委員会で決定します。

選考基準

- 生活協同組合と地域のNPO法人等との協同により成り立つ活動であること
- 計画の実現性
- 予算計画の妥当性
- 対象者のニーズに基づく活動であること
- 多様な地域住民の関わりや参加度
- 活動内容の新規性、先駆性(応募する活動に限らず、従来よりそのような活動を率先的に行っている実績があれば、それも考慮する)

同一の団体に継続して複数年に渡り助成を行う場合、3年を上限とします。また、審査委員会の判断により、申請より一部減額の上で助成が決定する場合もあります。

選考にあたり、事務局より電話等にてヒアリング調査を行う場合があります。

6 活動報告

助成を受ける団体には、活動中および活動終了後にA4用紙2枚程度の活動報告書をご提出いただきます。また、報告書提出の他に、活動状況のヒアリングや取材受け入れをお願いすることもありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告書の提出状況および内容については、コープ共済連のホームページや発行する冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

7 応募方法、提出書類

①応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記のお問い合わせ先まで電子メールかFAXにてご請求ください。

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare.html>

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

②応募方法

応募にあたっては、下記の書類を事務局宛にご送付ください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 団体設立時の定款、規約など
(ご不明な場合はご相談ください)

お問い合わせ先

日本コープ共済生活協同組合連合会

渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

TEL 047-351-3356

FAX 047-351-5298

メール kyosaiinfo@coopkyosai.coop

応募書類提出先

〒279-8588 千葉県浦安市入船1-5-2

コープ共済連 渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

**CO・OP共済 地域ささえあい助成
2013年度 活動報告集**

発行日：2014年8月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会

（渉外・広報部）

〒279-8588 千葉県浦安市入船1-5-2

電話 047-351-3356

